

中央教育審議会  
チームとしての学校・教職員の在り方

# 効果のある学校づくりの理論と実践

スクールリーダー育成のための  
指導論と組織論の融合理論

鳴門教育大学教職大学院

教授 久我直人

高知県教育委員会人権教育課

課長補佐 飯田泰明

# 教育再生のシナリオの理論と実践

—確かな学力を育み、いじめ、不登校等を低減する  
「効果のある指導」の組織的展開—

鳴門教育大学教職大学院

教授 久我直人

## 時代の潮流と学校に求められる2つの課題

1. 生起する問題の多様性と高度化

⇒学校の組織的対応が必須＝学校の組織化

2. 学校教育の目的＝「人格の完成」を目指す

20年後、30年後の評価に耐え得る教育を行う

⇒評価の時代になり、

学力、不登校数、いじめの件数を改善する、

明日の評価に耐え得る教育を行う

**「効果のある学校」づくり**

# 校長ヒアリングから抽出した頭痛の種 学校教育の3つの課題＋1

## 1. 子どもの学びと生活

学力低下(2こぶらくだ化); 学びの意欲格差  
規範意識の低下; いじめ, 学級崩壊...

## 2. 教師の指導の質

進まない授業改善(⇒教え込み型授業)

統制型⇔踏み込めない教師(⇒学級崩壊)

## 3. 教職員組織の個業化(多忙感・バラバラ感)

自己完結的な業務の遂行(⇒孤立化・心の病)

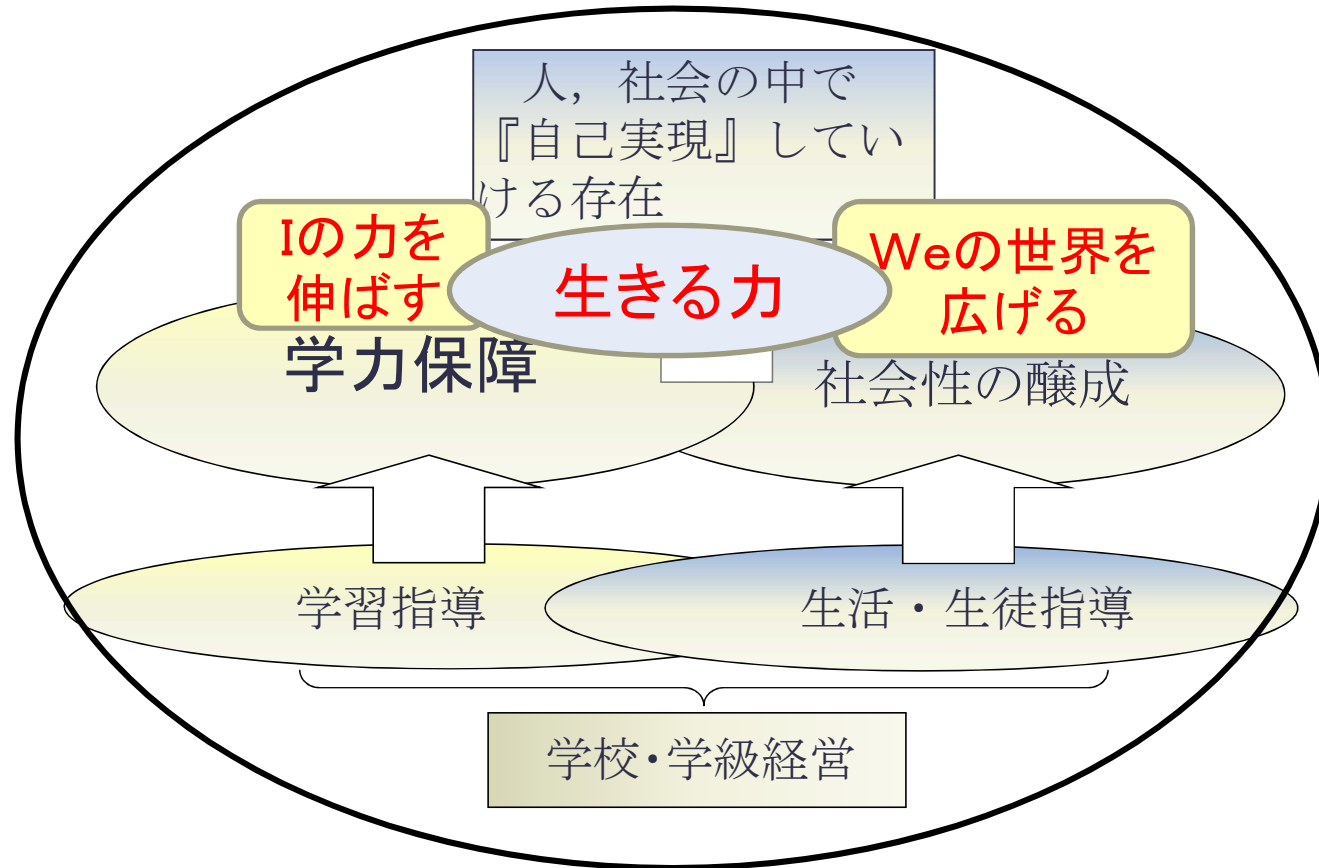
＋1; 保護者からのクレーム(⇒我が子志向の進行)

## 3+1の課題を同時に解決する 学校組織マネジメントの展開

### 3連立方程式の解の求め方

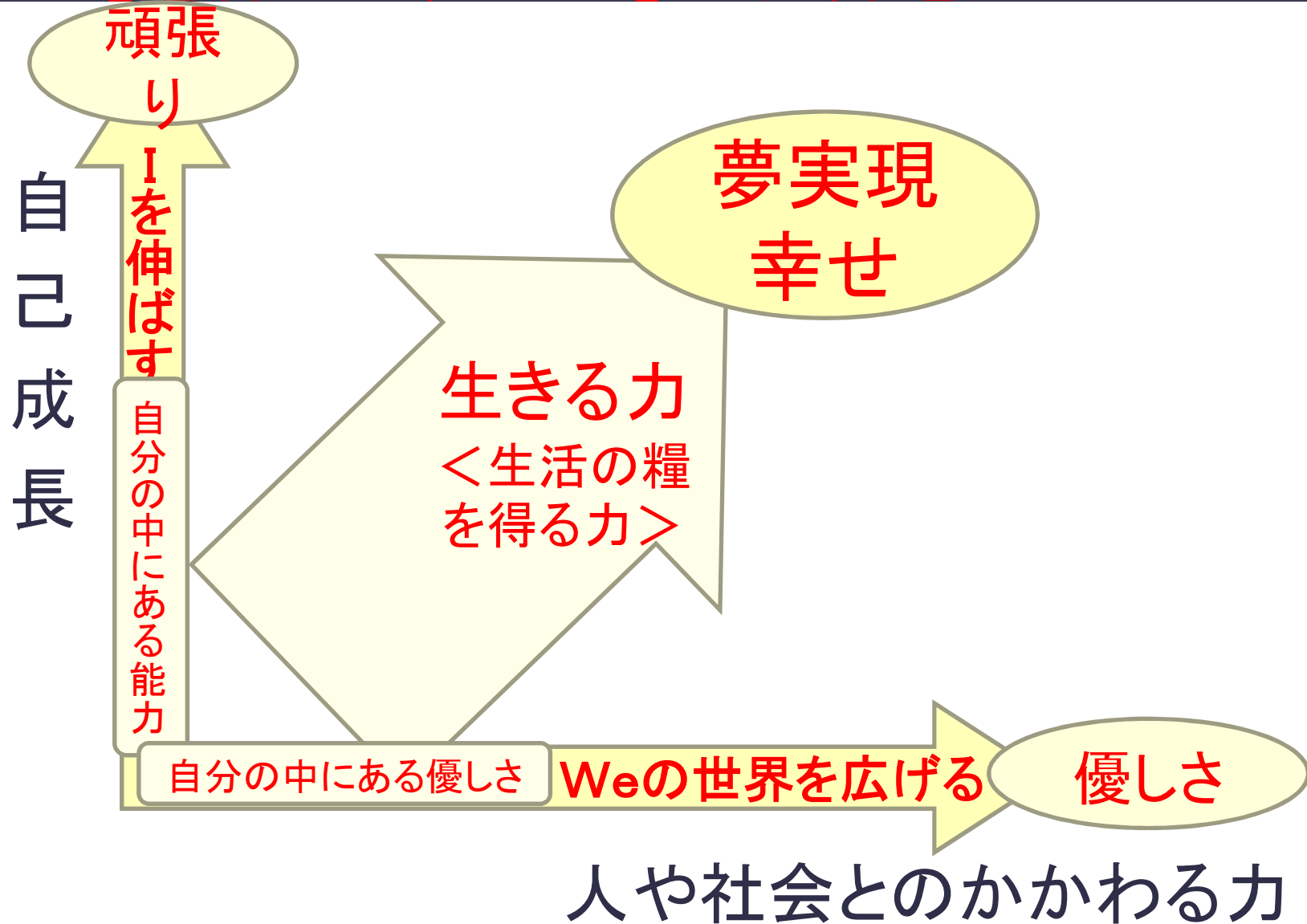
- ①子どもの意識と行動の構造に適合した  
『効果のある指導』⇒**子どもの変容**  
＜小さなエネルギーで大きな効果を生み出す＞
- ②教職員の組織的取り組み＜一点突破＞  
⇒**教職員の組織化**
- ③実践を通じた**指導の質的転換**＜OJT人材育成＞

# 学校教育の機能

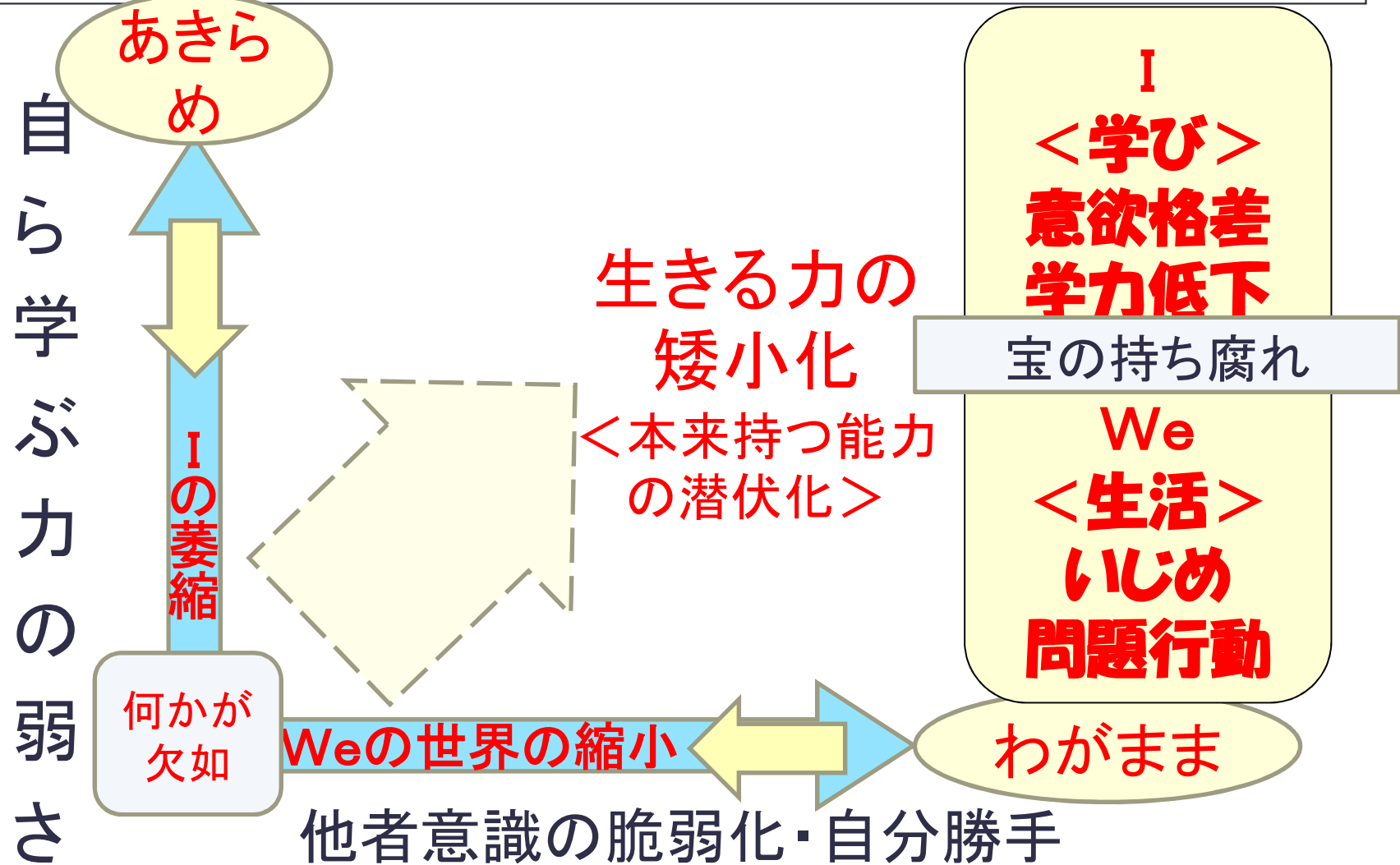


# 生きる力とは・・・

「I」を伸ばし、「We」の世界を広げる



# 子どもの本来もつ能力を引き出しているか 「I」眠れる能力, 「We」の世界を縮小





学校教育で生起する問題の根源的な原因と  
「頑張り」と「優しさ」を発揮させる原動力を探る

<1> 目に見える部分; 行動レベル

- ・学力低下(2こぶラクダ化)
- ・いじめ, 不登校, 学級崩壊等の生起する問題

枝葉の戦い

あれもこれも  
消耗戦

<2> 目に見えない部分; 内面・価値レベル

- ・子どもの意識・内面

経営的  
小En⇒大Ef

根幹への  
働きかけ

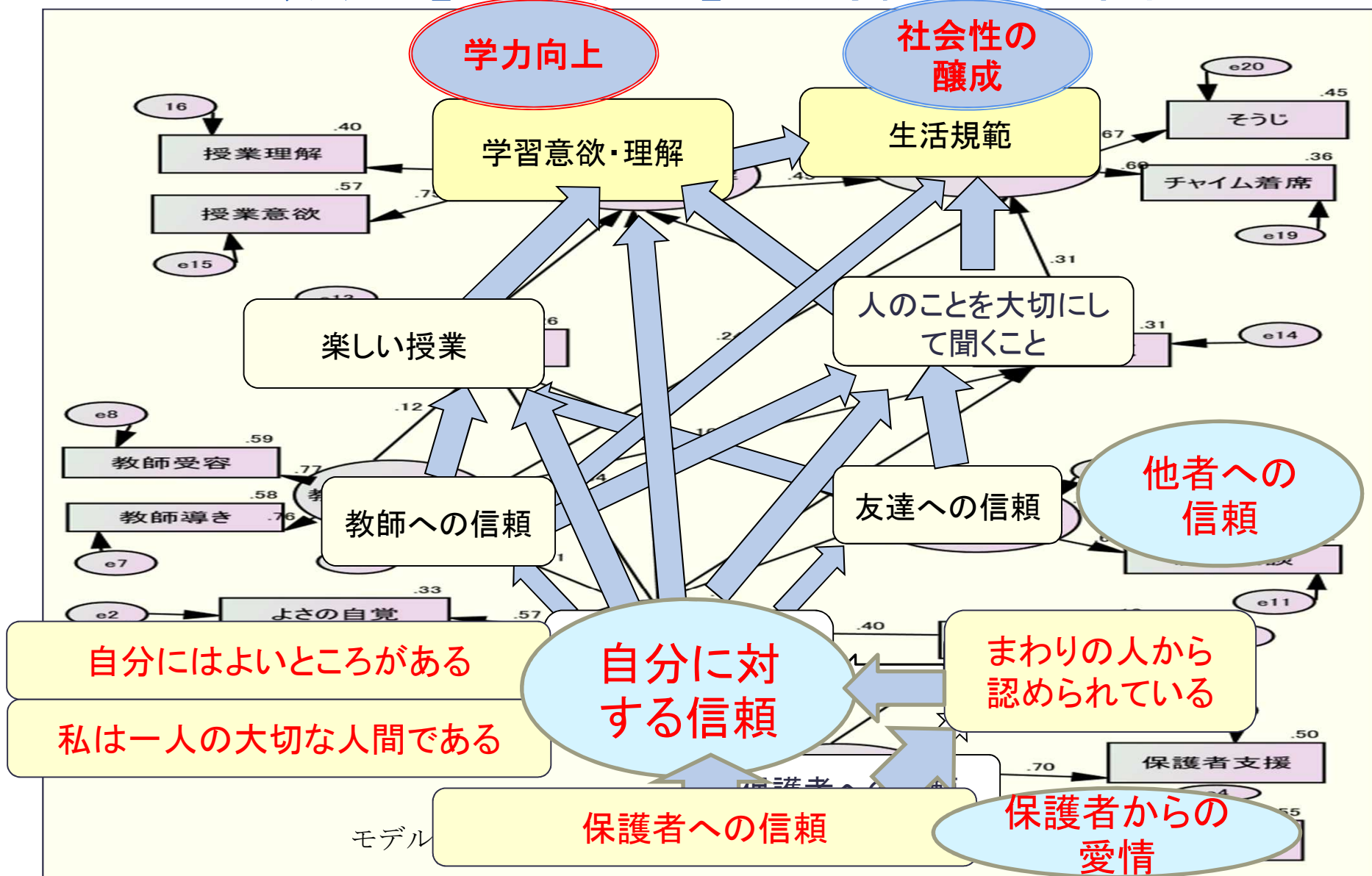
<1> ⇔ <2> を結ぶ

子どもの意識と行動の構造を探る

子どもが頑張り, 優しくなる条件を可視化する

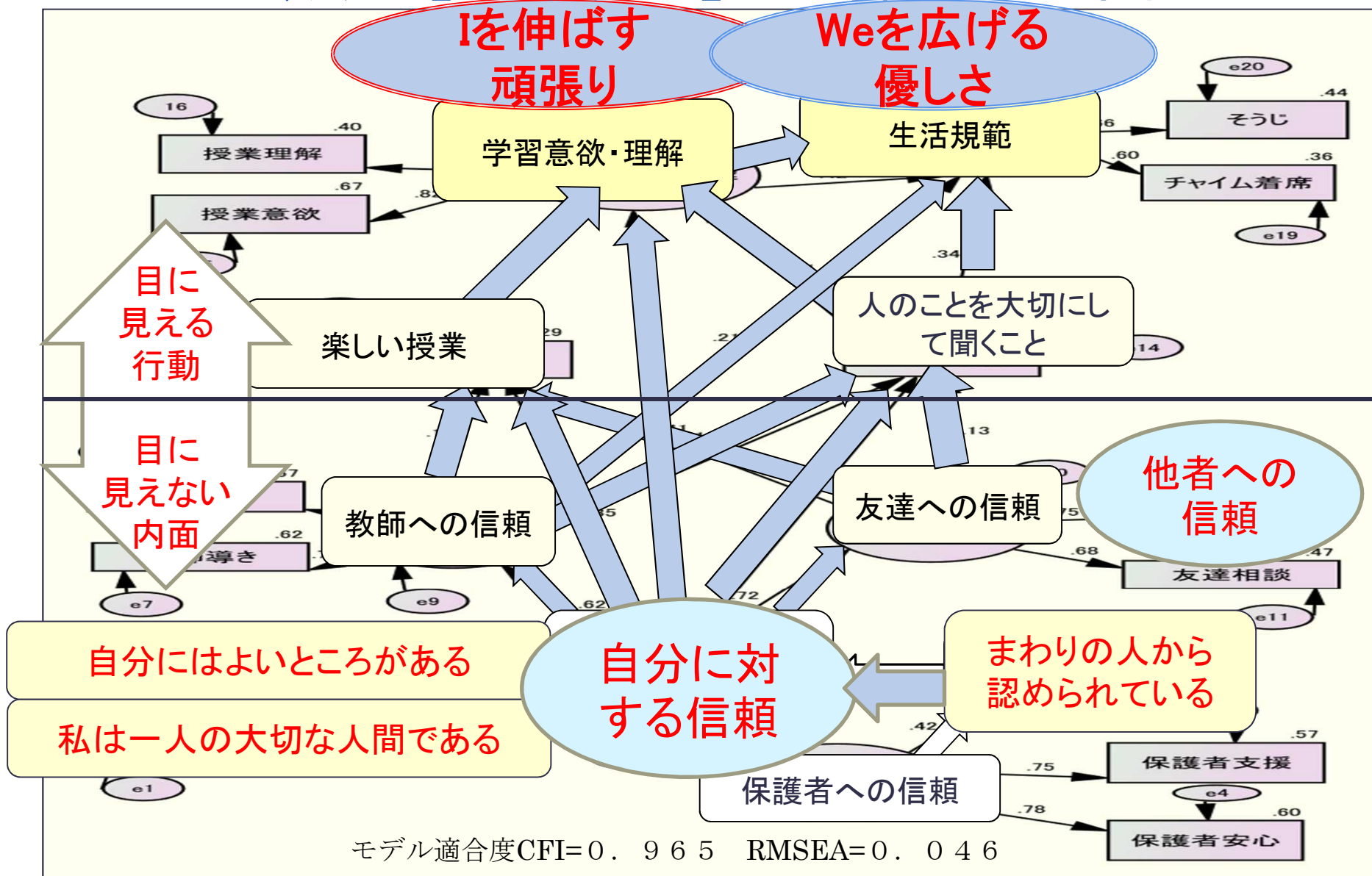
# 子どもの意識と行動の構造 (久我, 2014 IBM SPSS Amos Ver.19)

## 「頑張り」と「優しさ」を発揮させる条件

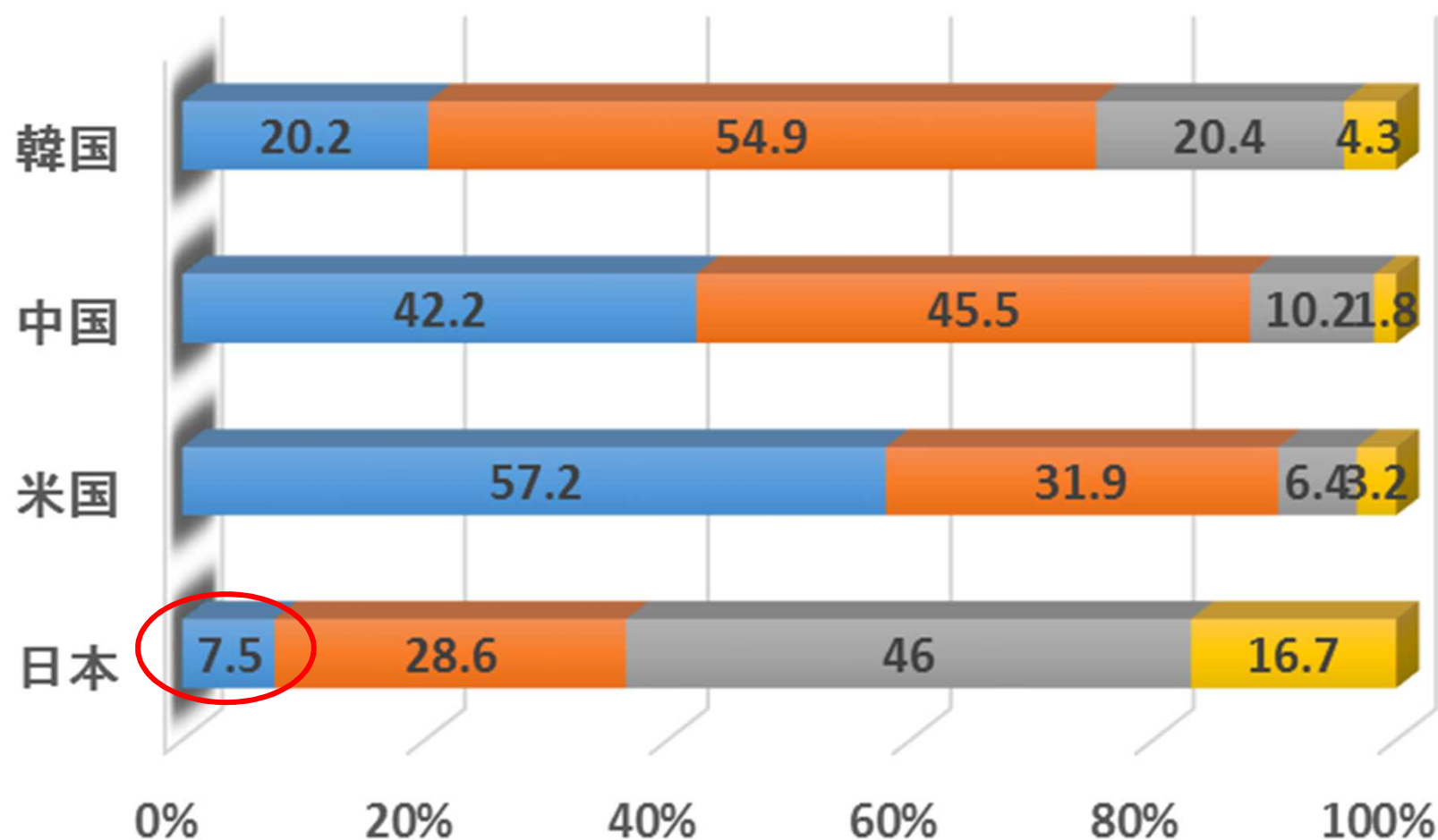


# 子どもの意識と行動の構造 (久我, 2014 IBM SPSS Amos Ver.19)

## 「頑張り」と「優しさ」を発揮させる条件



## 私は価値のある人間だと思う



■ 全くそうだ ■ まあそうだ ■ あまりそうではない ■ 全然そうではない

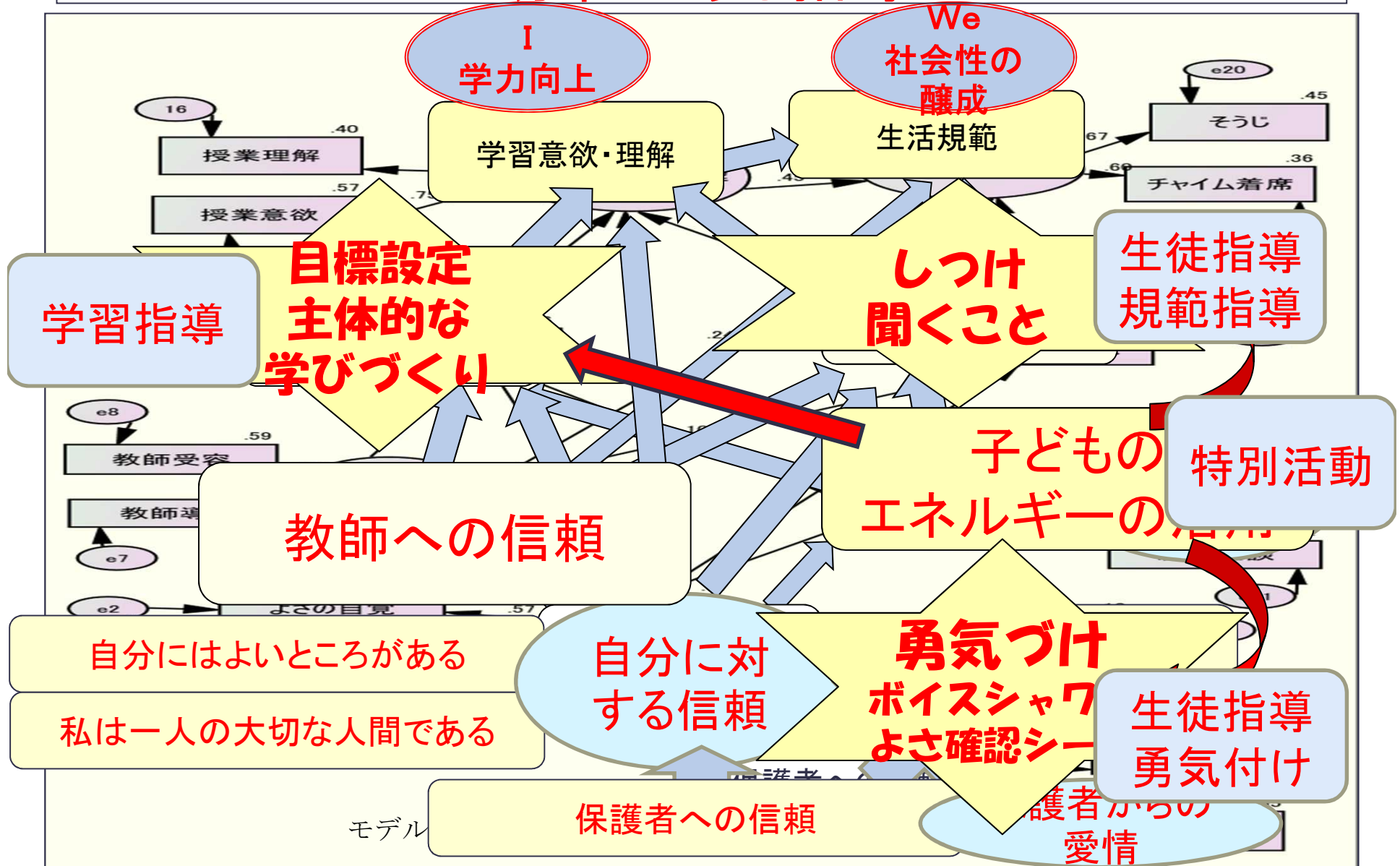
(出典)「高校生の心と体の健康に関する調査(2011年3月)

財団法人 一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人 日本青少年研究所(一部筆者加筆)

**教員の自己効力感**  
**【生徒の主体的学習参加の促進について】**  
 OECD 国際教員指導環境調査(TALIS2013)

	生徒に勉強 ができる と自信を持 たせる	生徒が学 習の価値を 見いだせる よう手助け する	勉強にあま り関心を示 さない生徒 に動機付け をする	生徒の批 判的思考を 促す
日本	17.6%	26.0%	21.9%	15.6%
参加国 平均	85.8%	80.7%	70.0%	80.3%

# 子どもの意識と行動の構造に適合した 効果のある指導

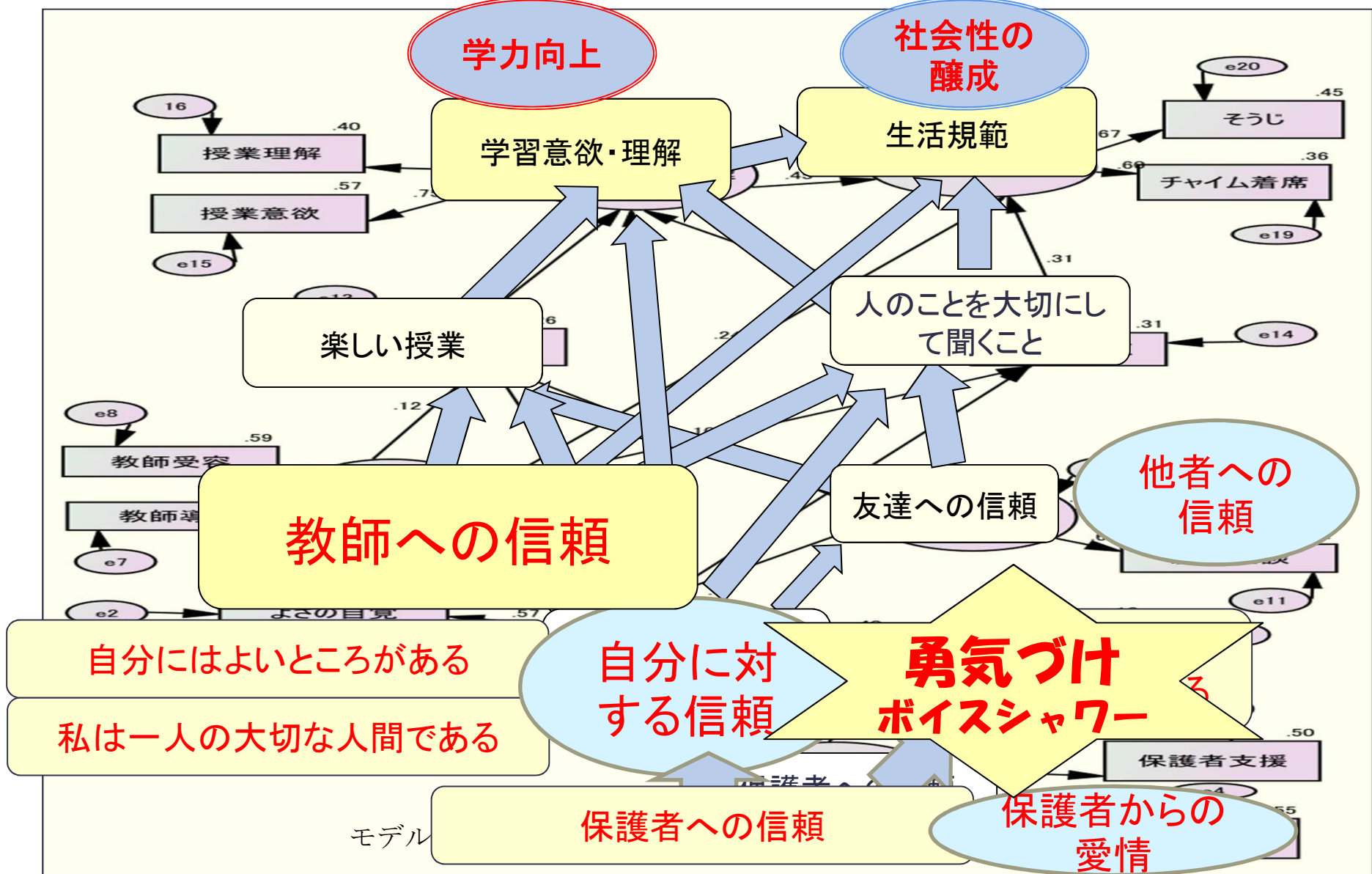


小さなエネルギーで大きな成果を生む  
「効果のある指導」の実施事例



# 子どもの意識と行動の構造

IBM SPSS Amos Ver.19





# 心をつなぐボイスシャワー

## 名前を付けたあいさつ・声かけ 頑張りや優しさの価値づけ

学年団で ● のよさを見取る

D A担任 B担任 C担任 E

一言で動  
ける子

説明すれば動  
ける子

寄り添わない  
と動けない子  
集団になじみ  
にくい子

日常的な声かけ  
ボイスシャワー  
合理的配慮

A組

B組

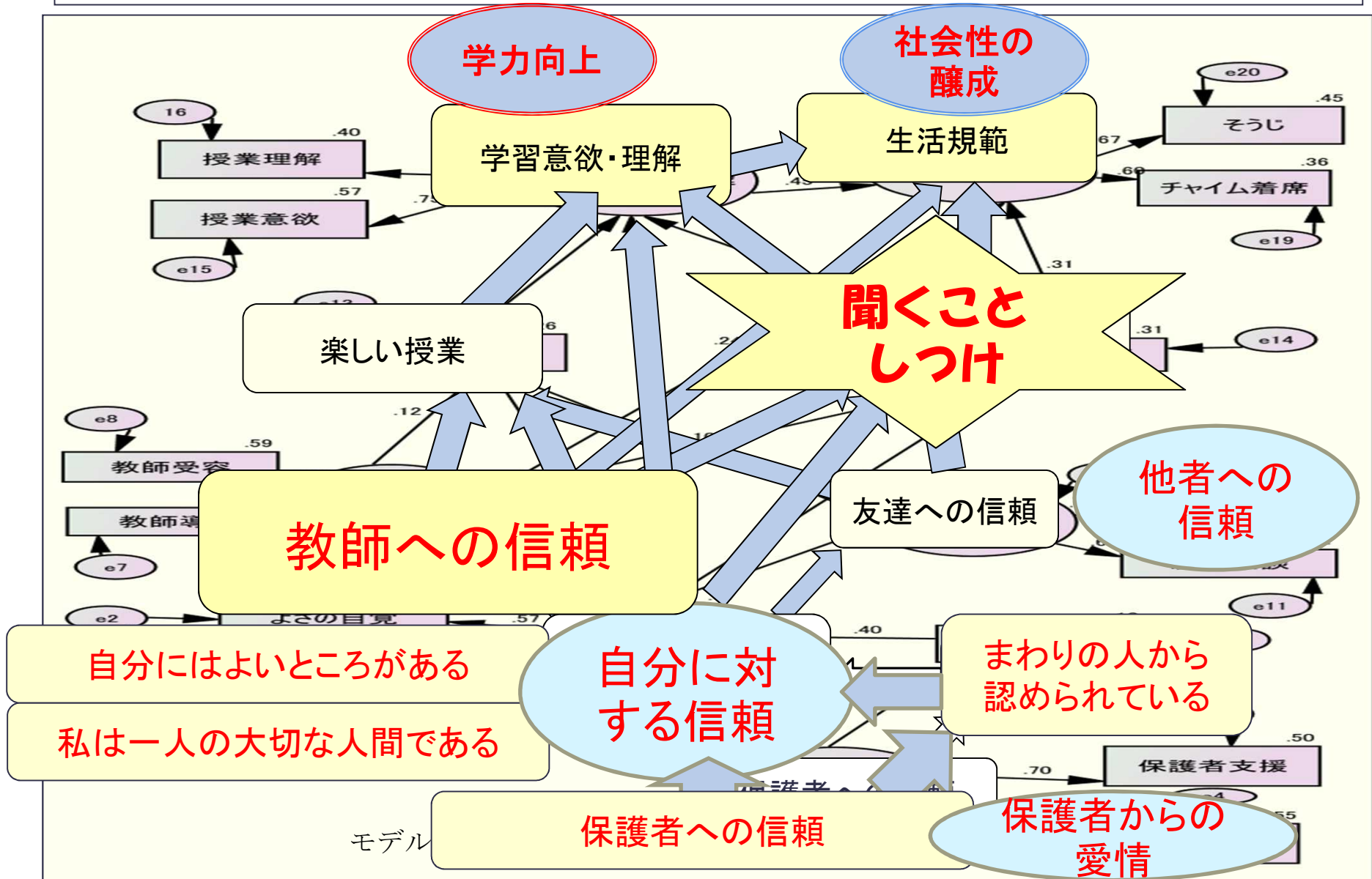
C組

学級・学年経営の浮沈を握る存在

A小学校 視点児童の変容  
(Q-Uテストの比較)

	H21.2実施 (人)	H21.11実施 (人)
学級生活満足群		6
侵害行為承認群	2	3
非承認群	2	2
学級生活不満足群	4	1
要支援群	5	1

# 組織的なしつけの取り組み



学習と生活の規範づくりの一点突破の取組  
「人のことを大切にして聞くこと」の共有と徹底



初期指導(4月;しつけ)「Weの世界」  
生活規範, 学習規律の指導と徹底

人のことを大切にして聴くことの共有と徹底

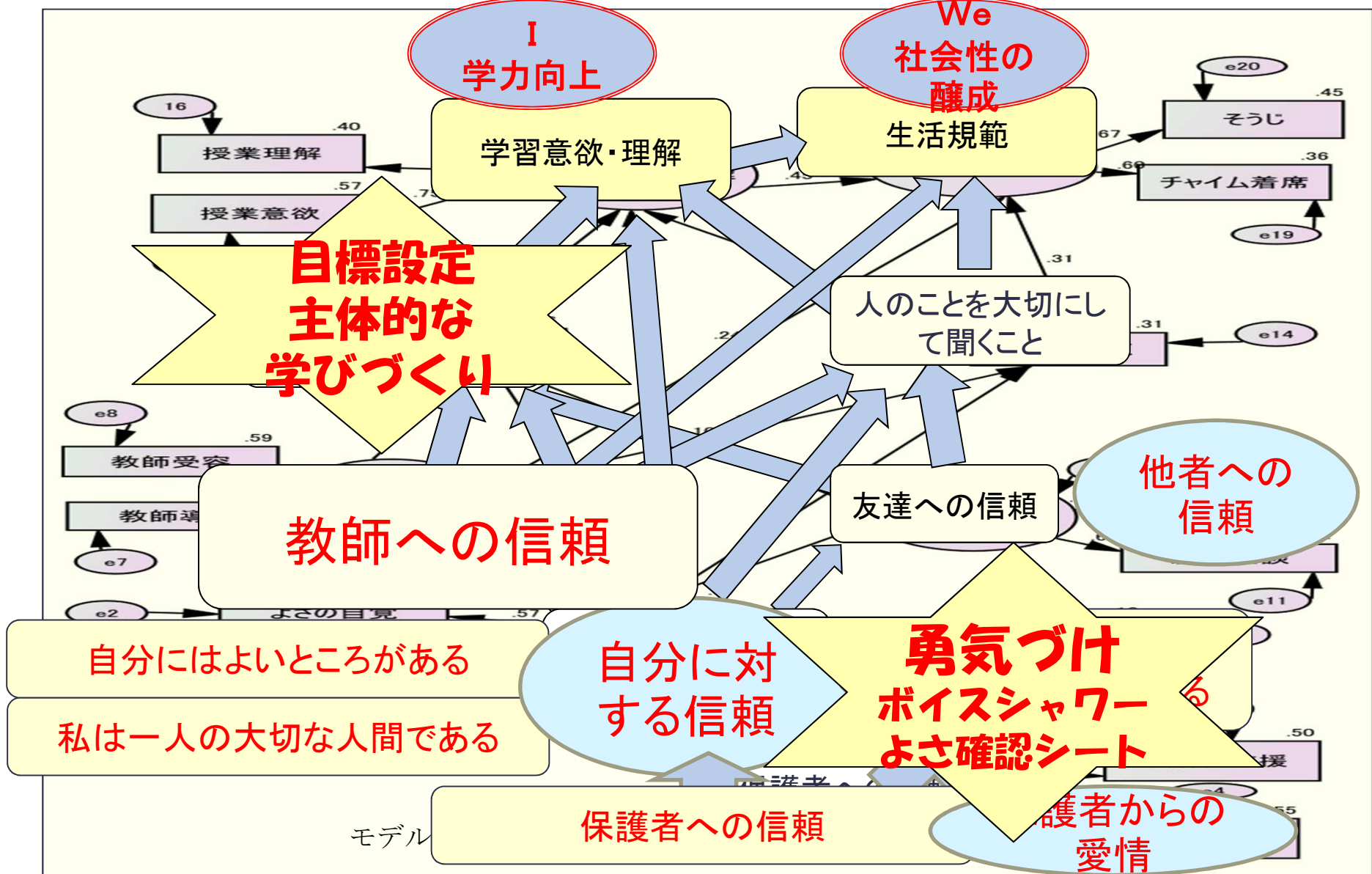
全校	始業式 全校集会 (初期指導)	校長 生徒指導主事
学年	学年集会	学年主任
学級	学級開き	学級担任

生徒会

チャイム着席コンテスト

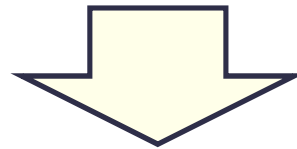
全校コンテスト

# 子どもの意識と行動の構造に適合した 効果のある指導



# 学力向上の重要なファクター

◇自己の**成長目標**(中・高=進路目標)  
(小・中=しつけ+勇気づけ)



②**家庭学習量**の増加(**定着**)



**学力向上**

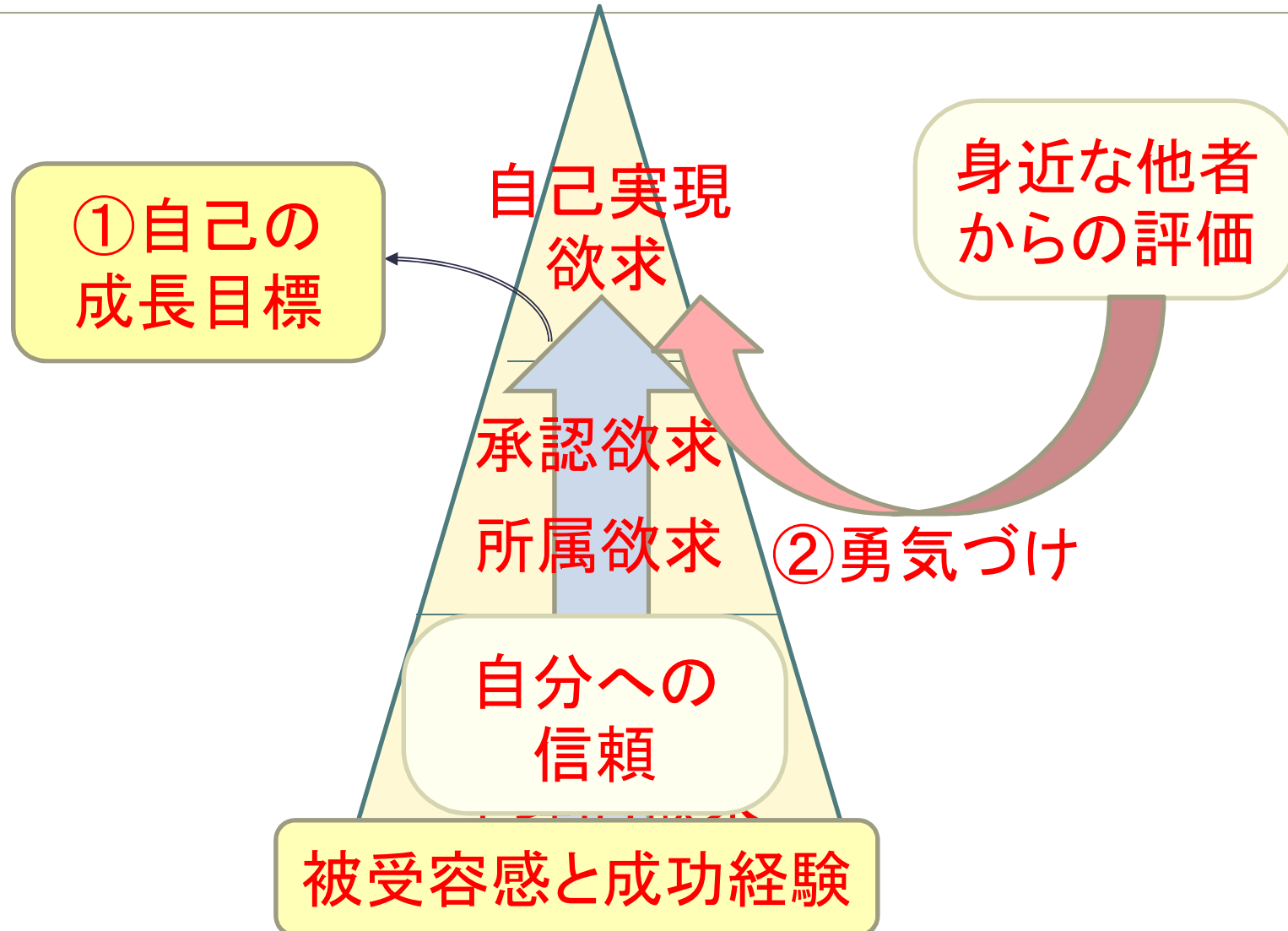


①授業**理解**

⇒**教え合い・学び合いの場**の設定が有効

# 「I」を伸ばすポイント

生徒に「内在する能力」を引き出し、活性化させる2つの力



マズローの欲求段階説を援用(久我;2011)



学びのポートフォリオ・シート

3  
年

学び

2  
年

1  
年

②自分のよさを生かした目標

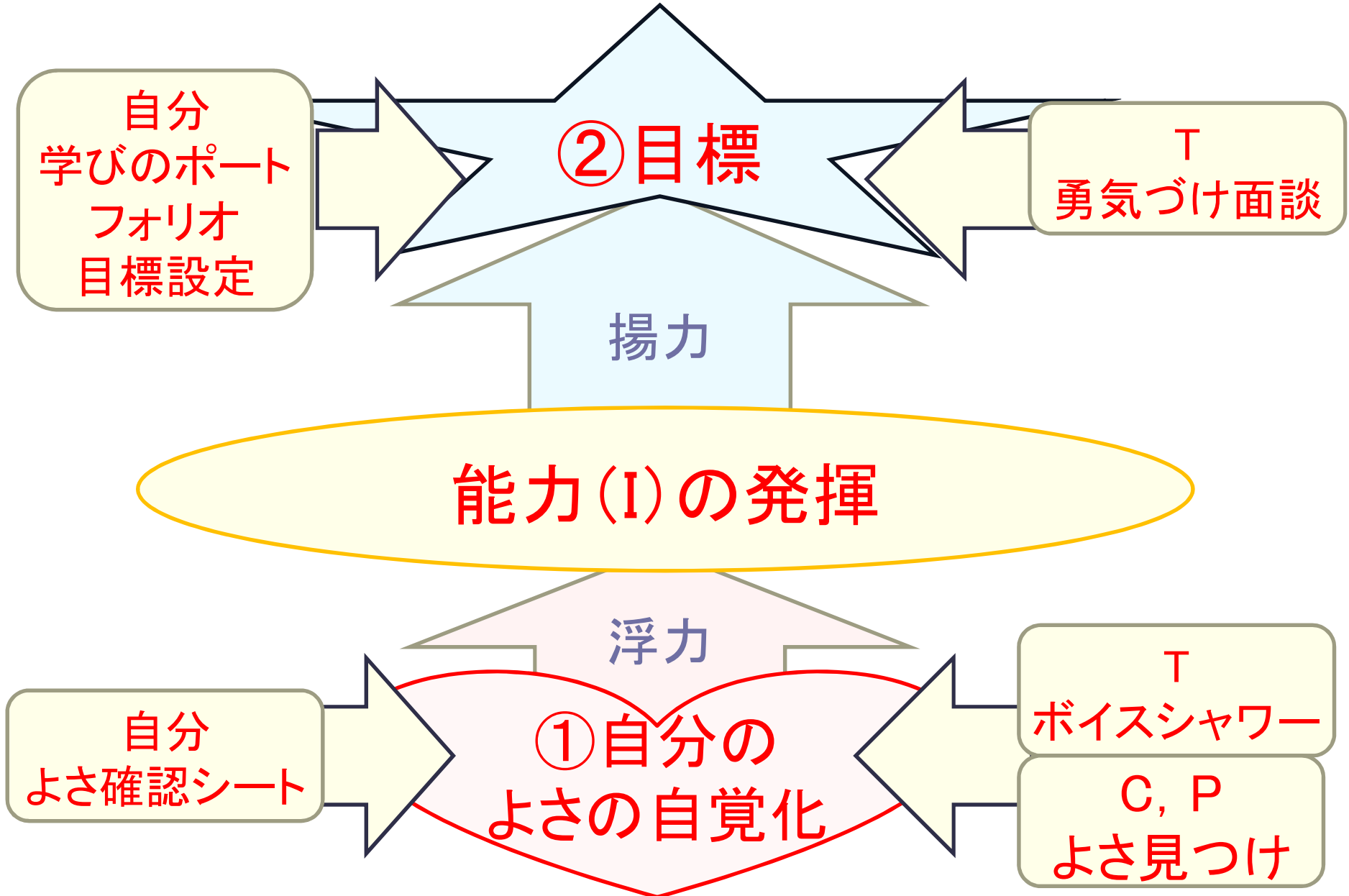
③目標達成のための努力

生活

①自分のよさや特性



# 能力を引き出し、発揮させる効果のある取り組み



# 子どもが学び合う授業づくり

## 1. 分かる授業(授業理解)づくり

授業理解を促す授業スタイル

⇒教え合い・学び合いのある授業

①しっかり教え

②じっくり考えさせ(個⇒グループ⇒全体)

③たっぷり価値づける

## 2. 主体性を生み出す魅力的な学習問題

## 3. 自分の考えや思いを伝える力を育む

(聞く, 考える, 話すスキルトレーニング; 話型)

# 学び合う授業の展開イメージ

目標・学習課題の明示

必要感・「おや」を生み出す課題

個人追究

課題解決の見通し; 解決の根拠・材料・既習事項の確認・支援

ペア・グループ学習

考えの交流(意見・根拠)・教え合い; WB活用等

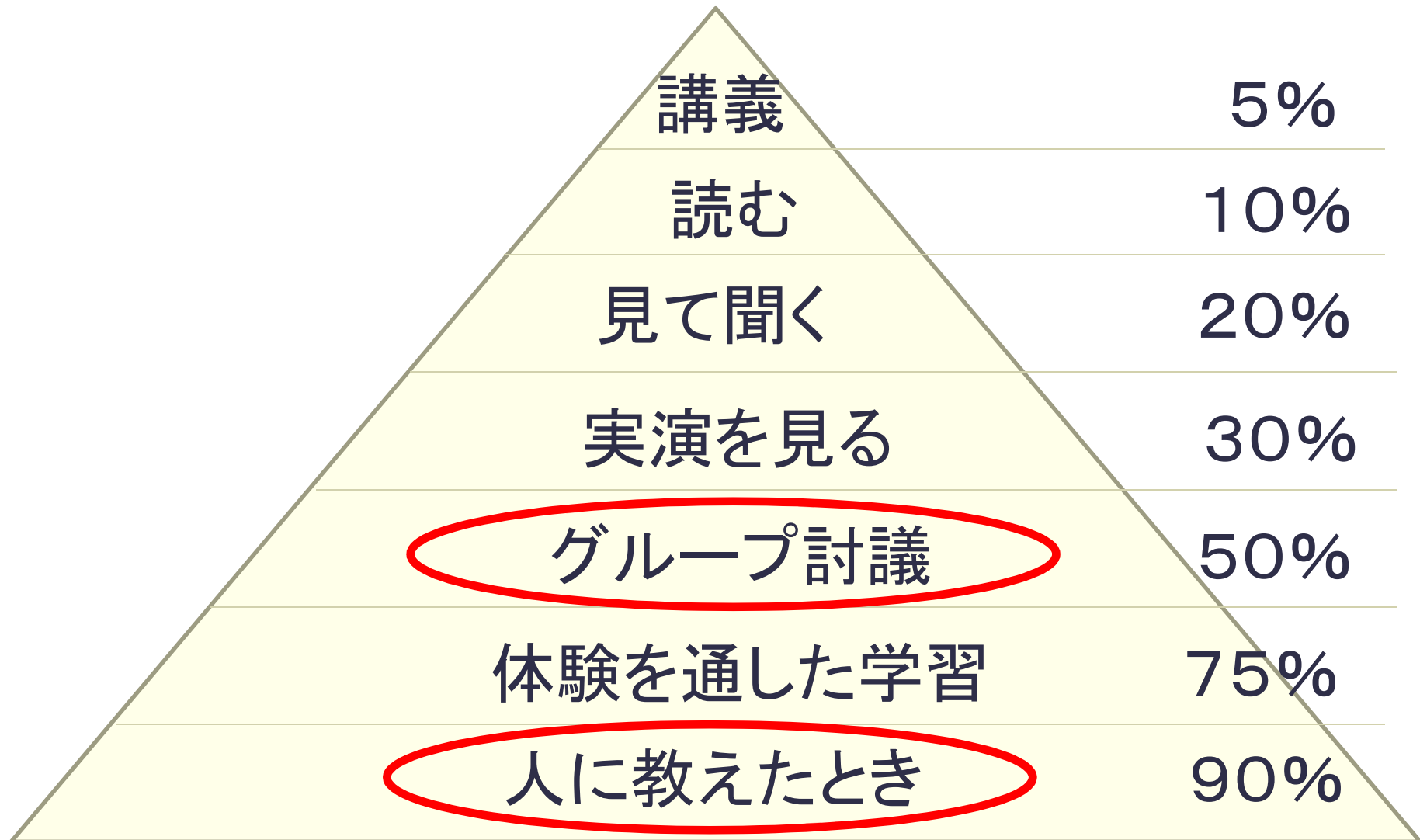
全体での学び合い

課題解決; 議論; 話す・聞く・疑問・反対・付け足し

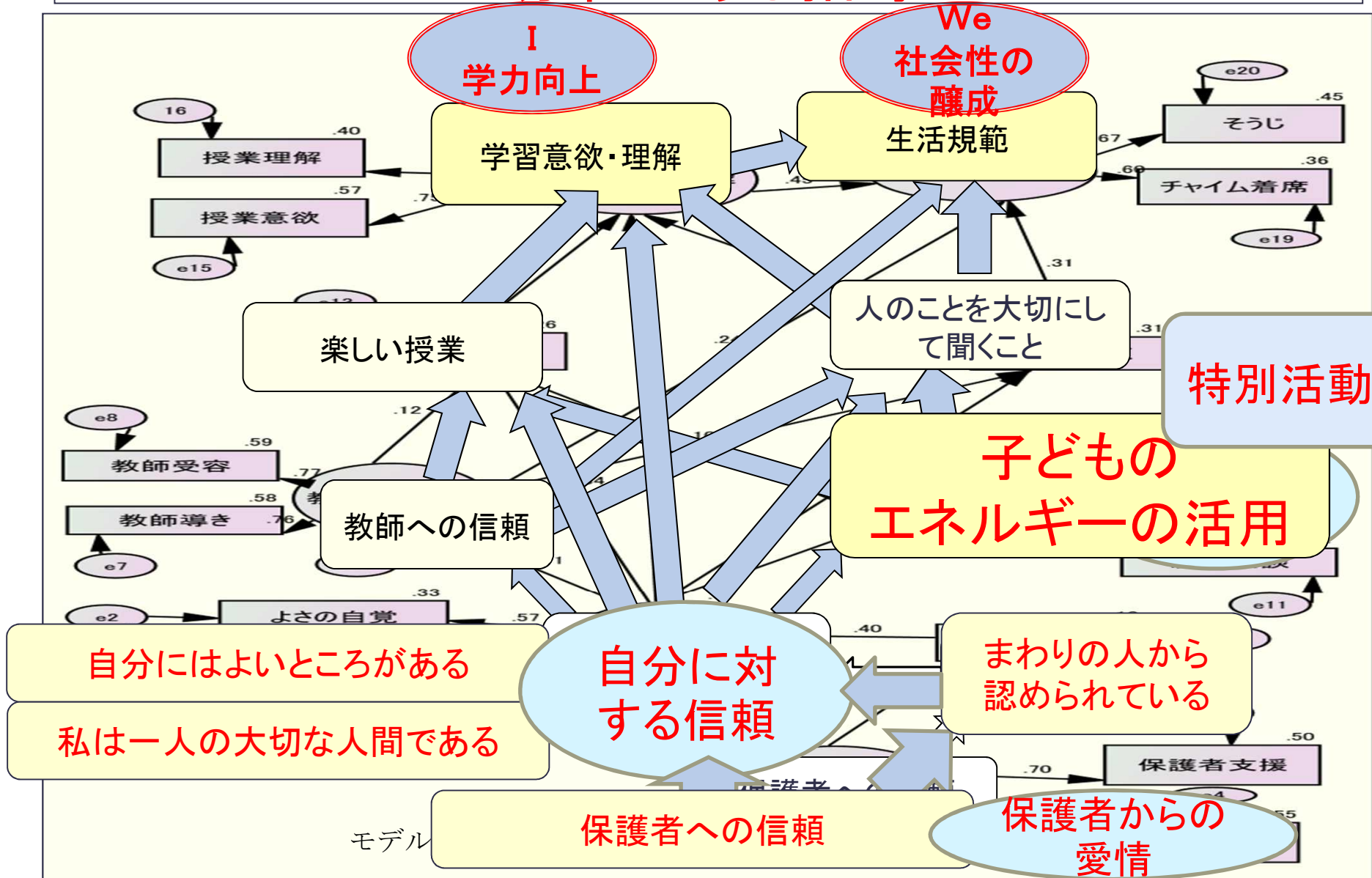
まとめと振り返り

課題解決の結果と議論を通した学びの振り返り

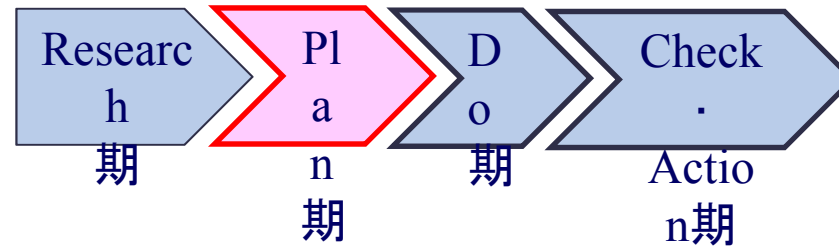
# 学習定着率「Learning Pyramid」 (出典: National Training Laboratories)



# 子どもの意識と行動の構造に適合した 効果のある指導



# 児童会運営委員会 (H26.3.15)



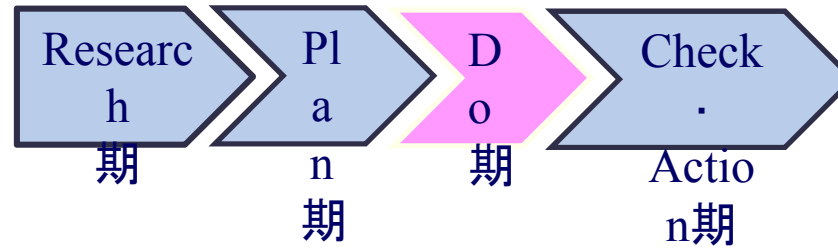
## I. 新児童会運営委員会による WSの実施

- めざす学校→  
置籍校のよさと課題→  
取り組みたいこと

- 教職員と児童の感じる  
置籍校のよさと課題が一致
- 子どもの思いを学校づくりに生かす

「あいさついっぱい！  
笑顔あふれる学校にしたい」

# 生活づくり プロジェクト



一点突破の目標の共有化

- 日本一聴ける学校にしよう
- 日本一あいさつのできる学校にしよう

体育館や各フロアに掲示

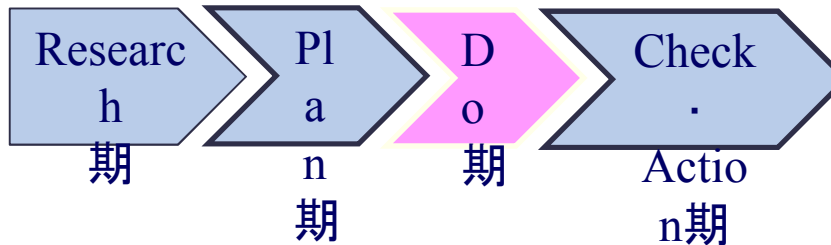
校長先生から、めざす子ども像の提示

生徒指導主任から今年度の目標

児童会代表から、決意表明



# 生活づくり プロジェクト



T-C間の  
信頼関係構築

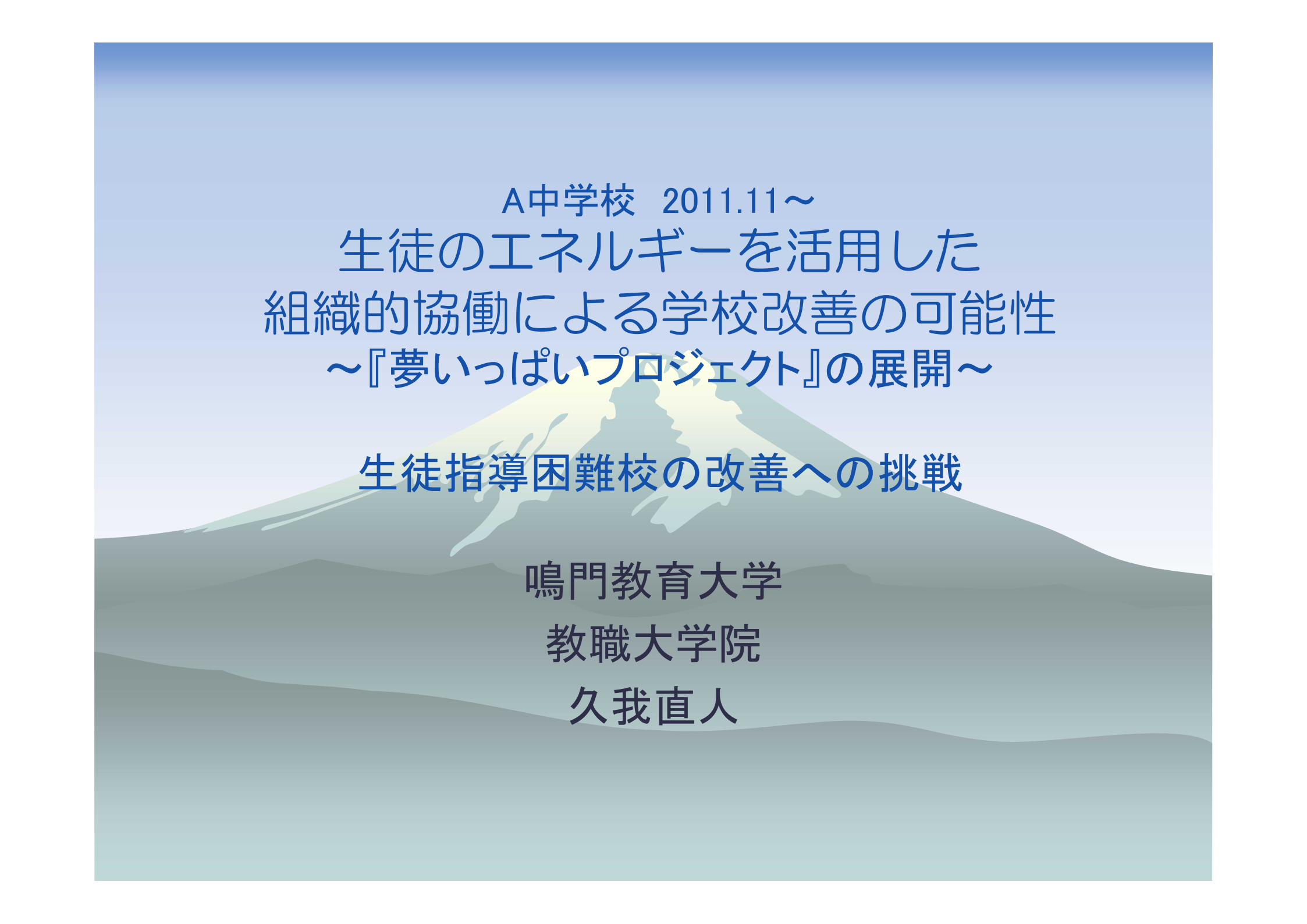
心をつなぐ  
あいさつ

C-C間の  
信頼関係構築

- 教師から、個々の子どもへ「名前」「言葉かけ」を加えたあいさつ
- ハイタッチを加えた、T-C, C-C間のあいさつ

朝の教職員によるあい  
さつ運動

朝会時の、児童会によるハイタッ  
チあいさつ

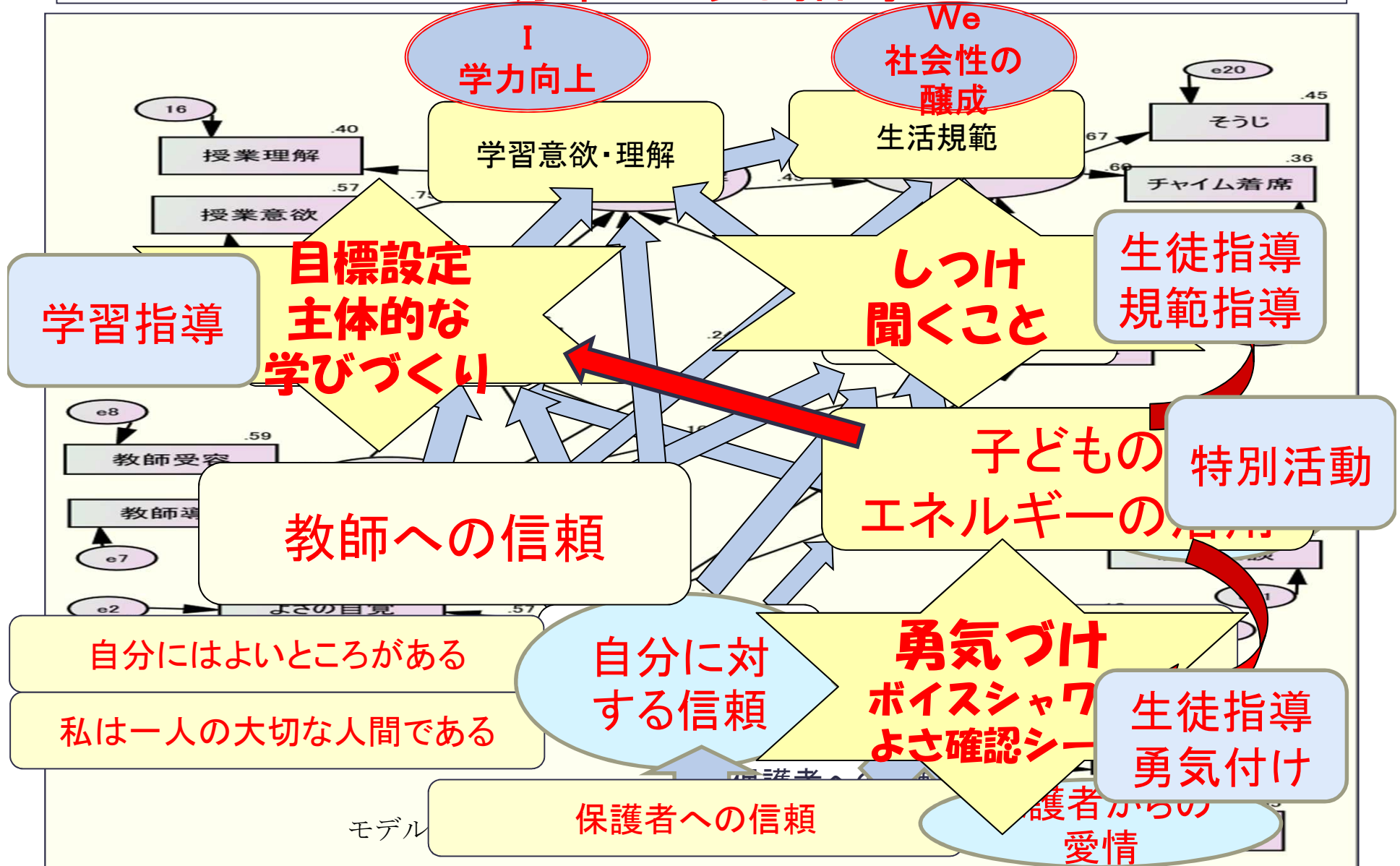


A中学校 2011.11～  
生徒のエネルギーを活用した  
組織的協働による学校改善の可能性  
～『夢いっぱいプロジェクト』の展開～

生徒指導困難校の改善への挑戦

鳴門教育大学  
教職大学院  
久我直人

# 子どもの意識と行動の構造に適合した 効果のある指導



# 生徒との協働で取り組むプロジェクト

日本一幸せが多い学校にしよう

「夢いっぱいプロジェクト」

進路指導  
夢実現

夢実現プロジェクト(Iの伸長)  
「自分のよさを生かした夢をもとう」

自分と  
向き合う

特別活動

イベント実行プロジェクト(Weの世界の拡張)  
友達とのかけがえのない思い出を創ろう

エネルギー  
の正の活用

生徒指導

優しさいっぱいプロジェクト(Weの世界の拡張)  
社会に通用するマナーを身につけよう

大人のマ  
ナーの習得

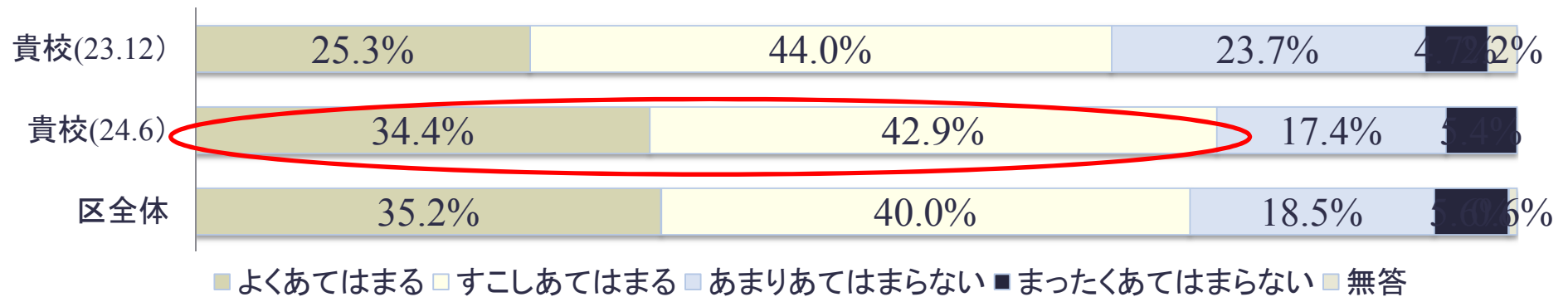
学習指導

将来に生きる学びプロジェクト(Iの伸長)  
自分の夢に近づくための勉強をしよう

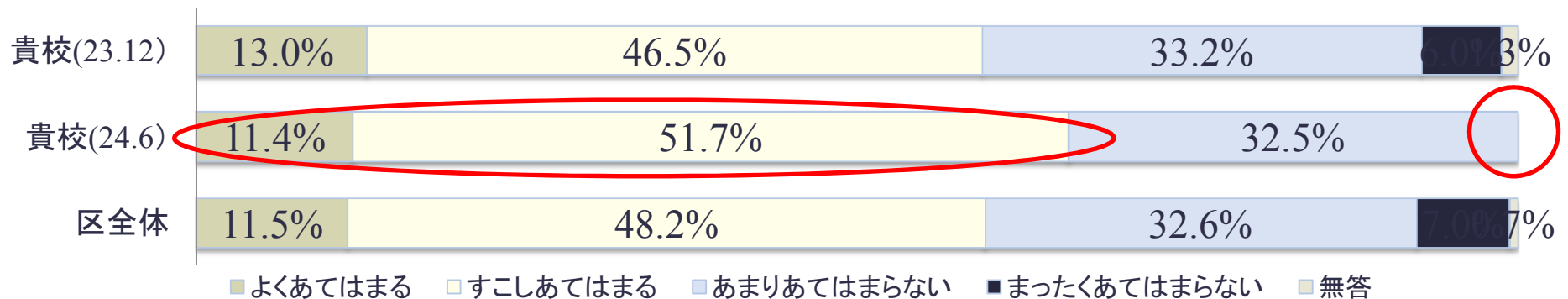
夢と学び  
をつなぐ

# 生徒データの変容(自己肯定感, 被承認感) 23.12⇒24.6(ビフォー・アフター)

## わたしは、一人の大切な人間である



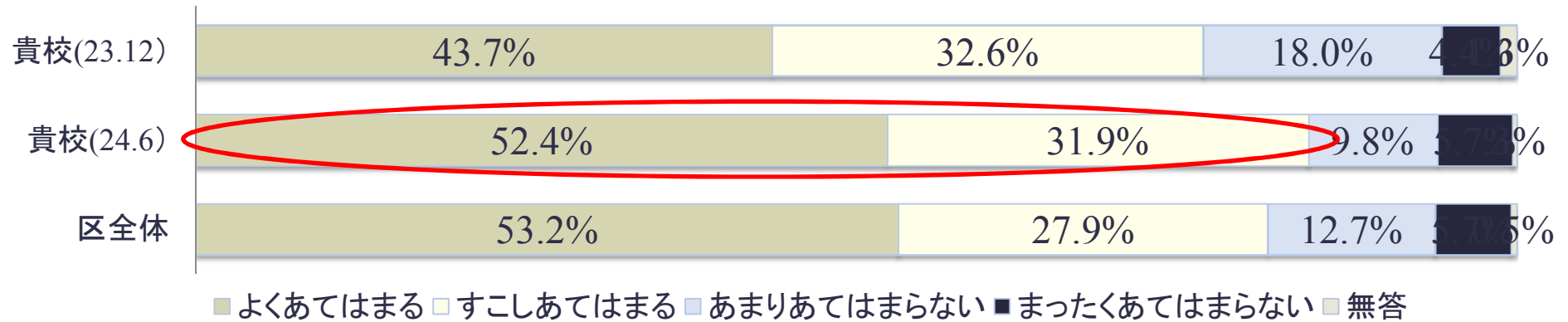
## わたしは、まわりの人(家族, 友達, 先生)から認められている



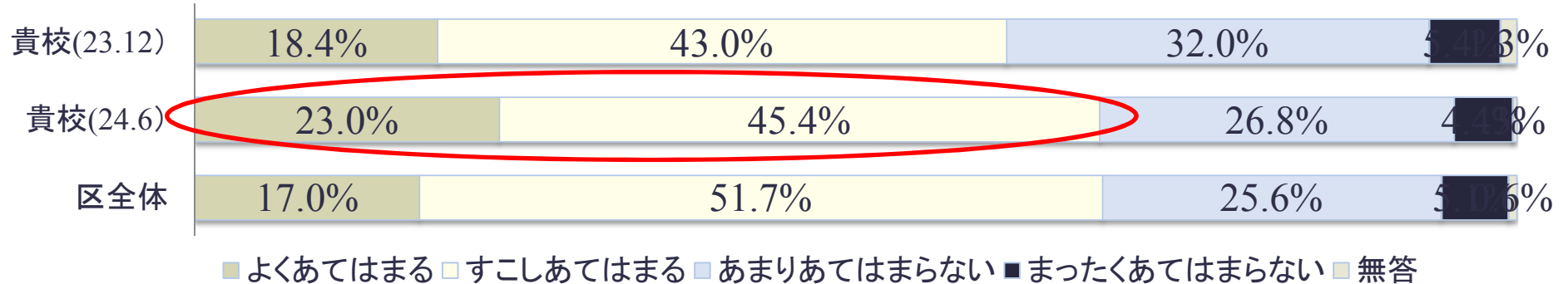
# 生徒データの変容(学習への意識)

## 23.12⇒24.6(ビフォー・アフター)

### 好きな授業, 楽しい授業がある



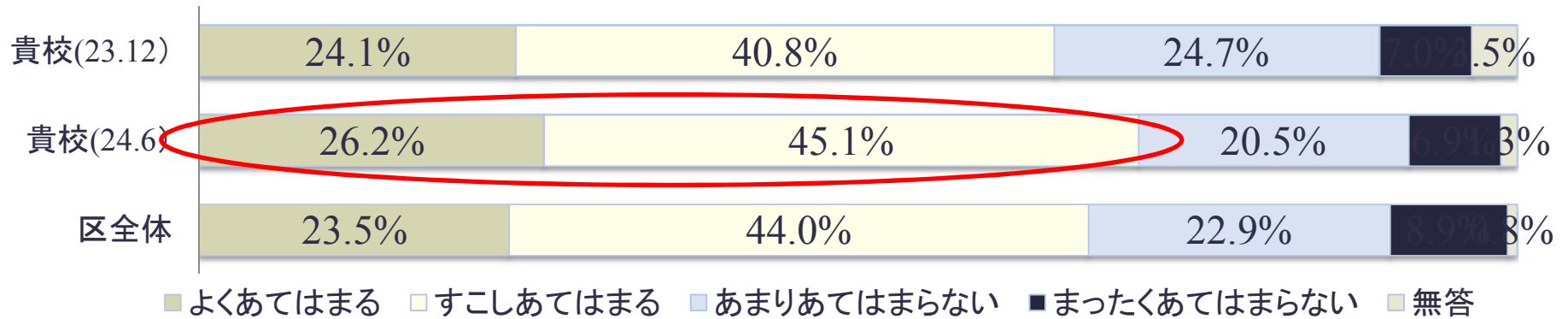
### わたしは, 授業に意欲的に取り組んでいる



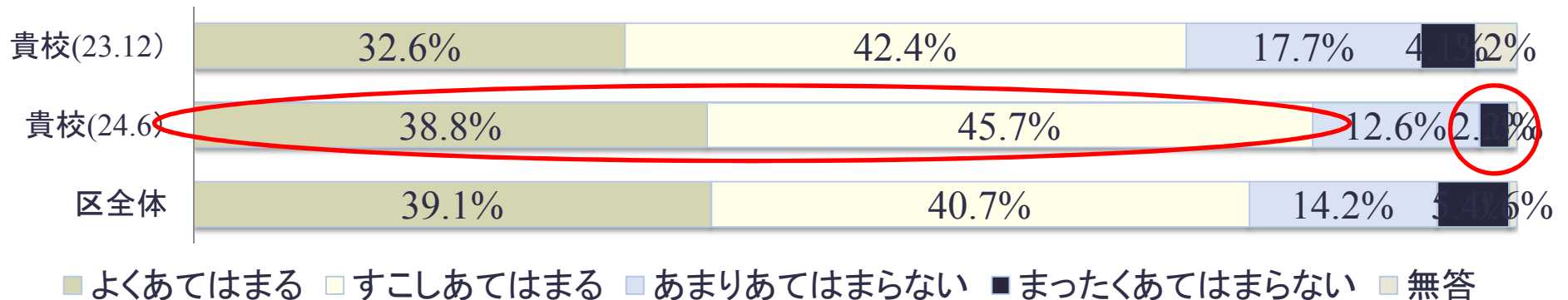
# 生徒データの変容(教師への信頼)

## 23.12⇒24.6(ビフォー・アフター)

わたしのクラスの先生は、わたしの気持ちや思いをよく受けとめてくれる

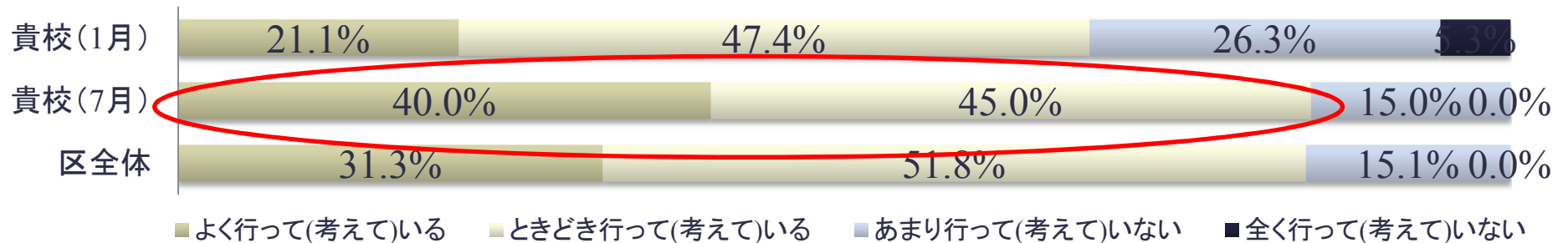


わたしのクラスの先生は、勉強や生活で、きちんと指導をしてくれる

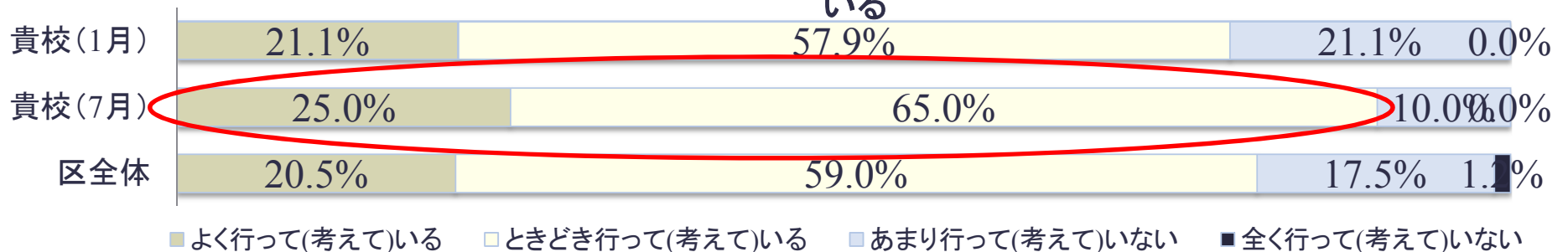


# 生徒の変容を生み出した教師の指導・支援 23.12⇒24.6(価値づけ, 勇気付け指導)

## 子どもの良い行動を積極的に見つけて, クラス全体に紹介する



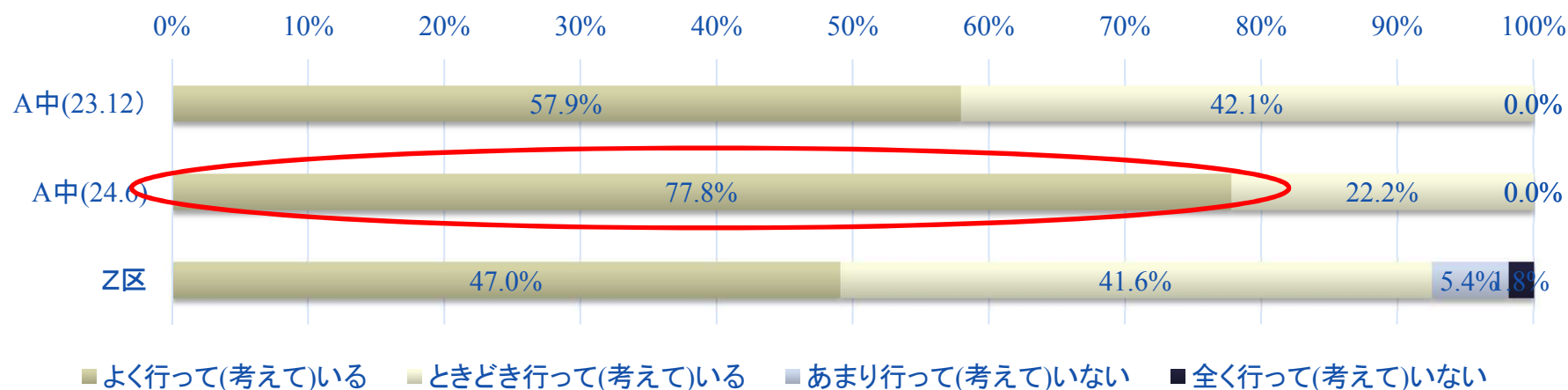
## 問題を抱える子等, 特別な配慮が必要な子にも活躍・活動の場を意図的に設定している



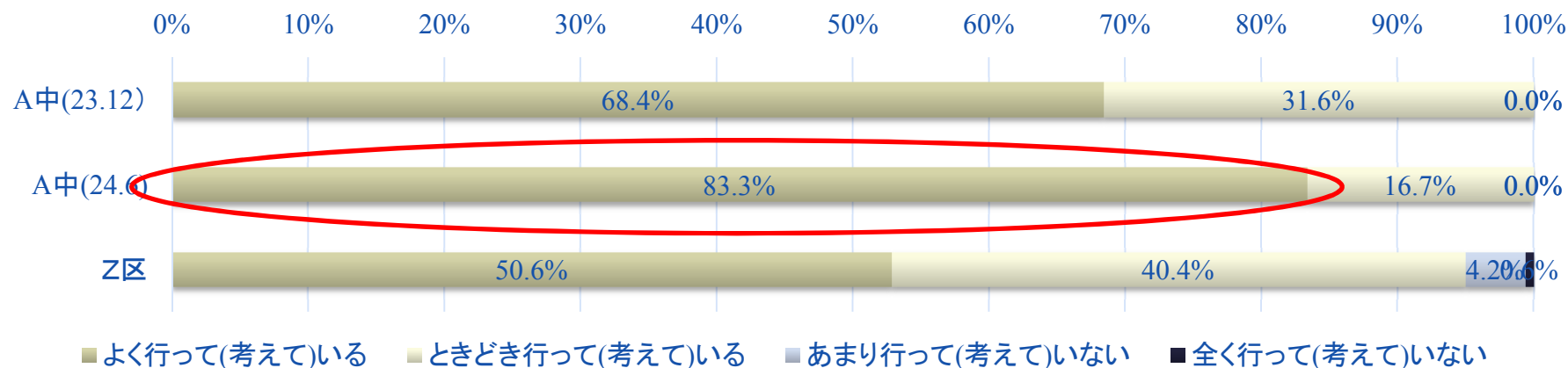


# 教師の生徒への「まなざし」の変容

## 学級の子どもについて、どの子にも成長への期待を感じている



## 学級の子どもについて、どの子にも教育的な愛情を感じている



## 生徒の変容意識(感想);6月中間評価 A中,自分の変わった(成長した)ところ

### <自分>

- ◎テスト勉強をまじめにできた
- ◎自主学習ができるようになった
- ◎ボランティアに取り組むようになった

### <学校・クラス>

- ◎集会が静かになった。授業中私語がなくなった
- ◎まじめにできる人が多くなった,まじめな人が急増
- ◎あいさつがふえた,明るくなった
- ◎掃除がちゃんとできた,ゴミが落ちていなくなった
- 事件がなくなった(自転車盗,ばくちく)

# A中の変容

## 生徒会役員のWSでの発言から

平成24年3月

平成25年1月

### 「攻撃的な他者意識」

- ▲授業をエスケープする
- ▲授業中、私語をする
- ▲人が傷つくことを言う
- ▲物を蹴って壊す

### 「柔和な他者意識」

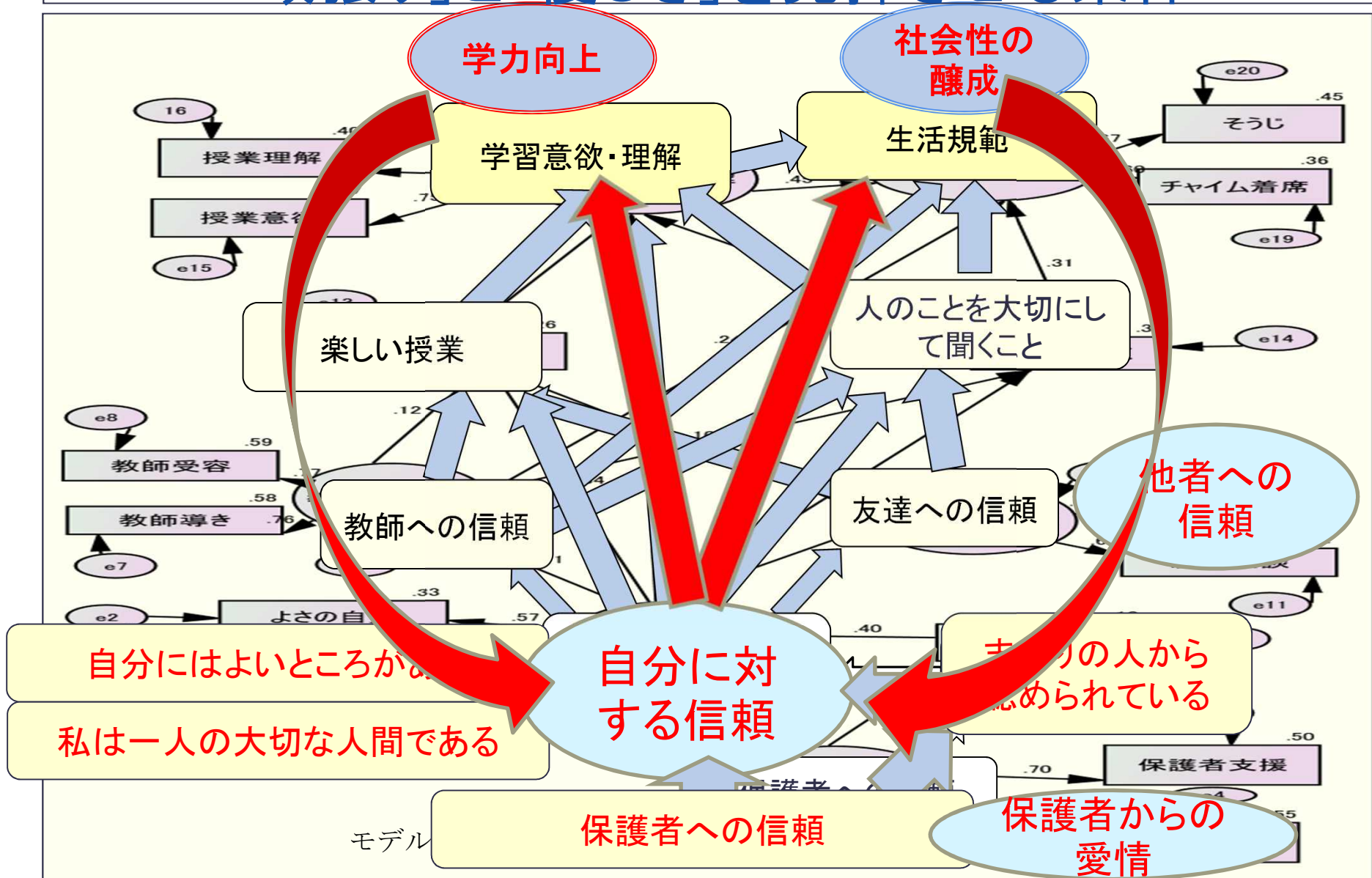
- ◎いじめはない
- ◎困っている子を助ける・教え合う
- ◎先生と仲がいい

体育祭  
授業風景  
も変容

心の安定が行動の安定につながる  
自分を磨く生徒＝他者を思う生徒

# 子どもの意識と行動の構造 (久我, 2014 IBM SPSS Amos Ver.19)

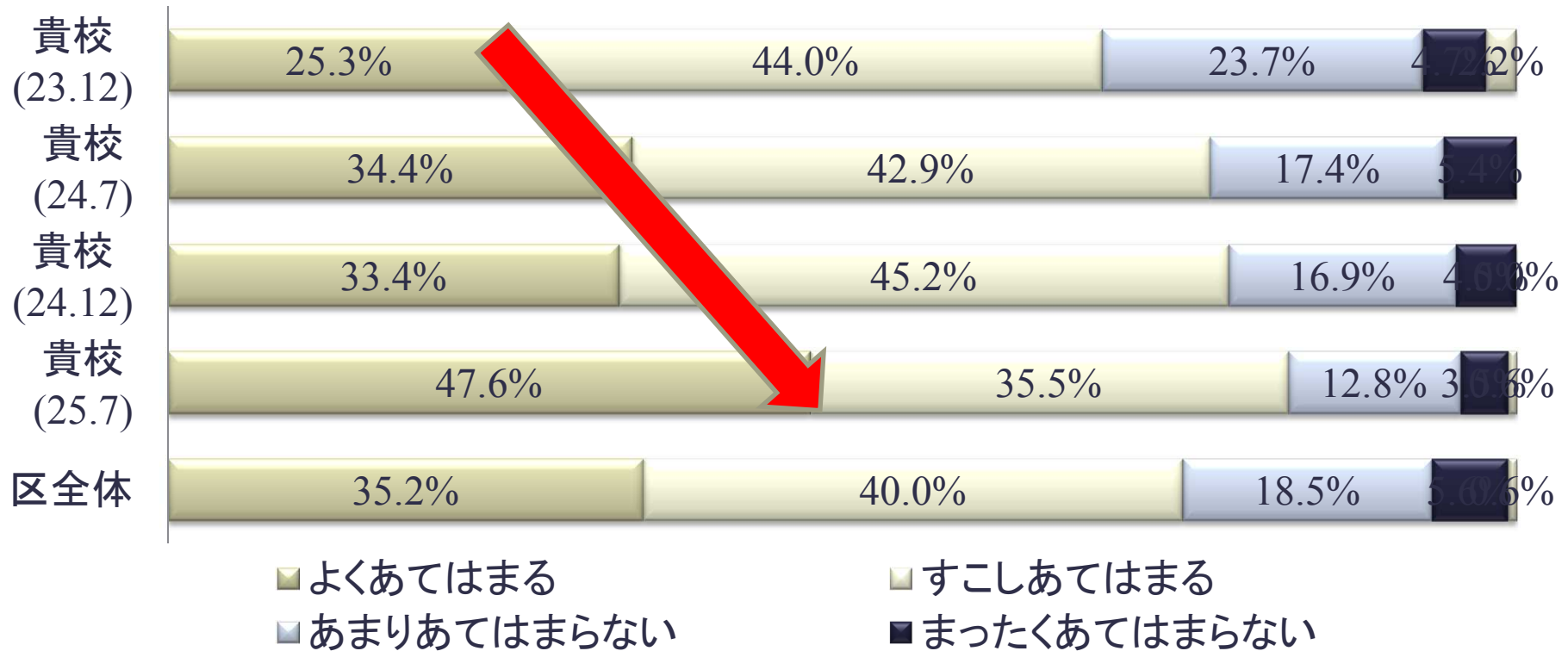
## 「頑張り」と「優しさ」を発揮させる条件



# A中の自分に対する信頼の変化

## 23. 12⇒25. 7にかけて

わたしは、一人の大切な人間である



# 学校改善を実現する2つの条件

①組織的な取組（組織化）

②効果のある指導の導入

生徒の意識と行動の構造に適合した

効果のある取組

**内面 = 勇気づけ ⇒ 自分への信頼**

**行動 = 「聞くこと」のしつけ**

確かな学力を育み, まとまりのある集団をつくる

# 優れた教師の3つの視座

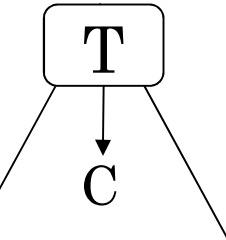
鳴門教育大学 久我

< 指示・教示⇒習得型 >

< 第1の視座 >

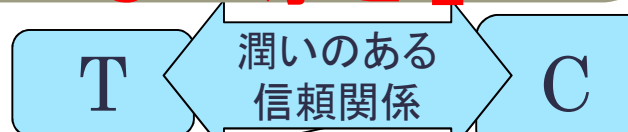
しっかり しつける  
確かな「導き」

①



分かりやすく教える

③



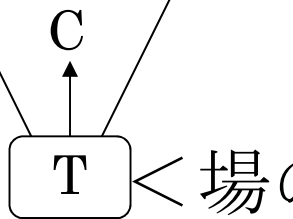
人対人として向き合い勇気づ  
ポジティブフォーカス

< 第3の視座 >

たっぷり 価値づけ  
勇気づける

自ら学ぶ力  
自律性を培う

②



< 場 >

< 第2の視座 >

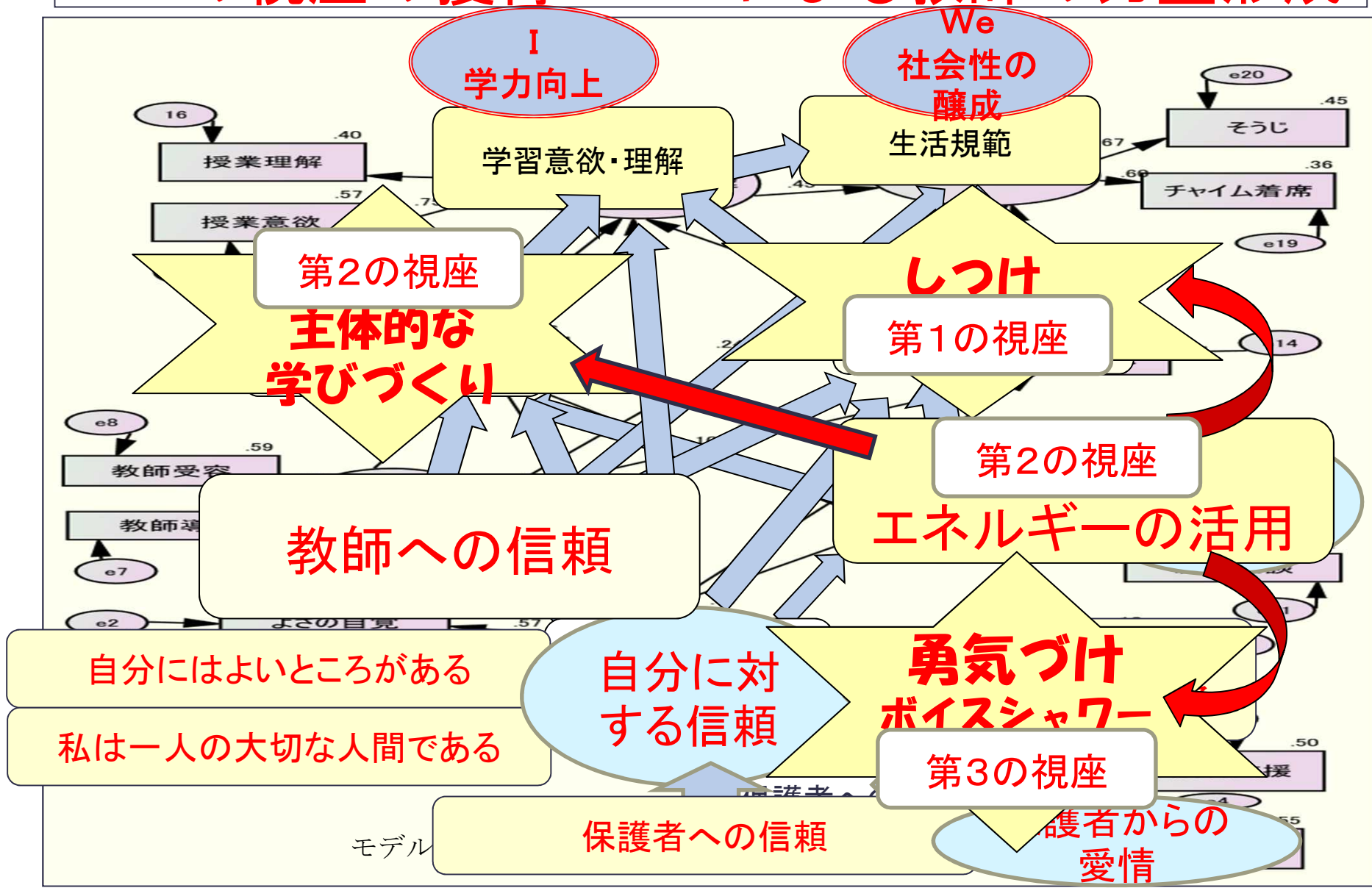
じっくり 考えさせた  
自学・自治

学び合う集団・  
した学習, 活動, 生活

(T)

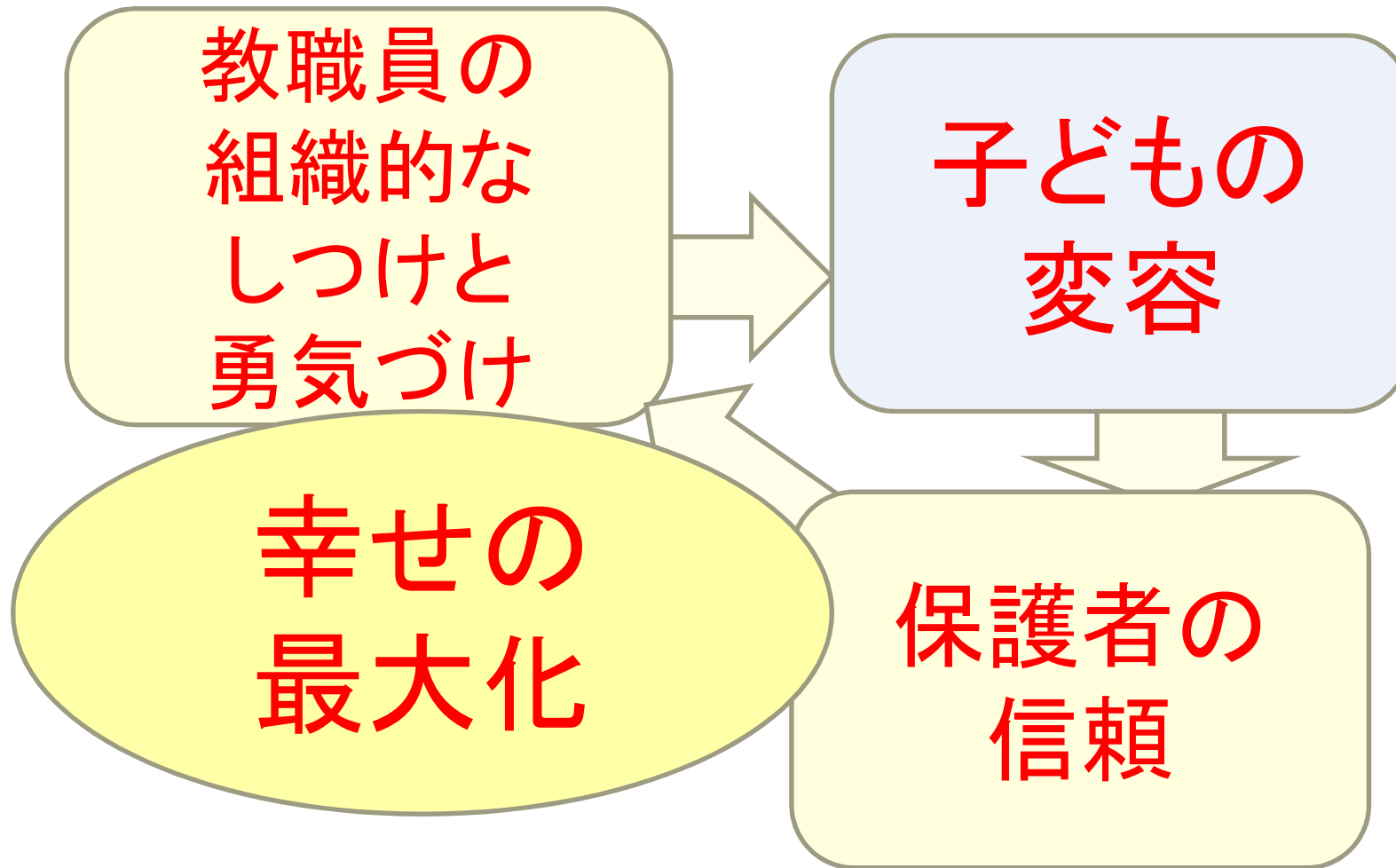
> 自学支援 >

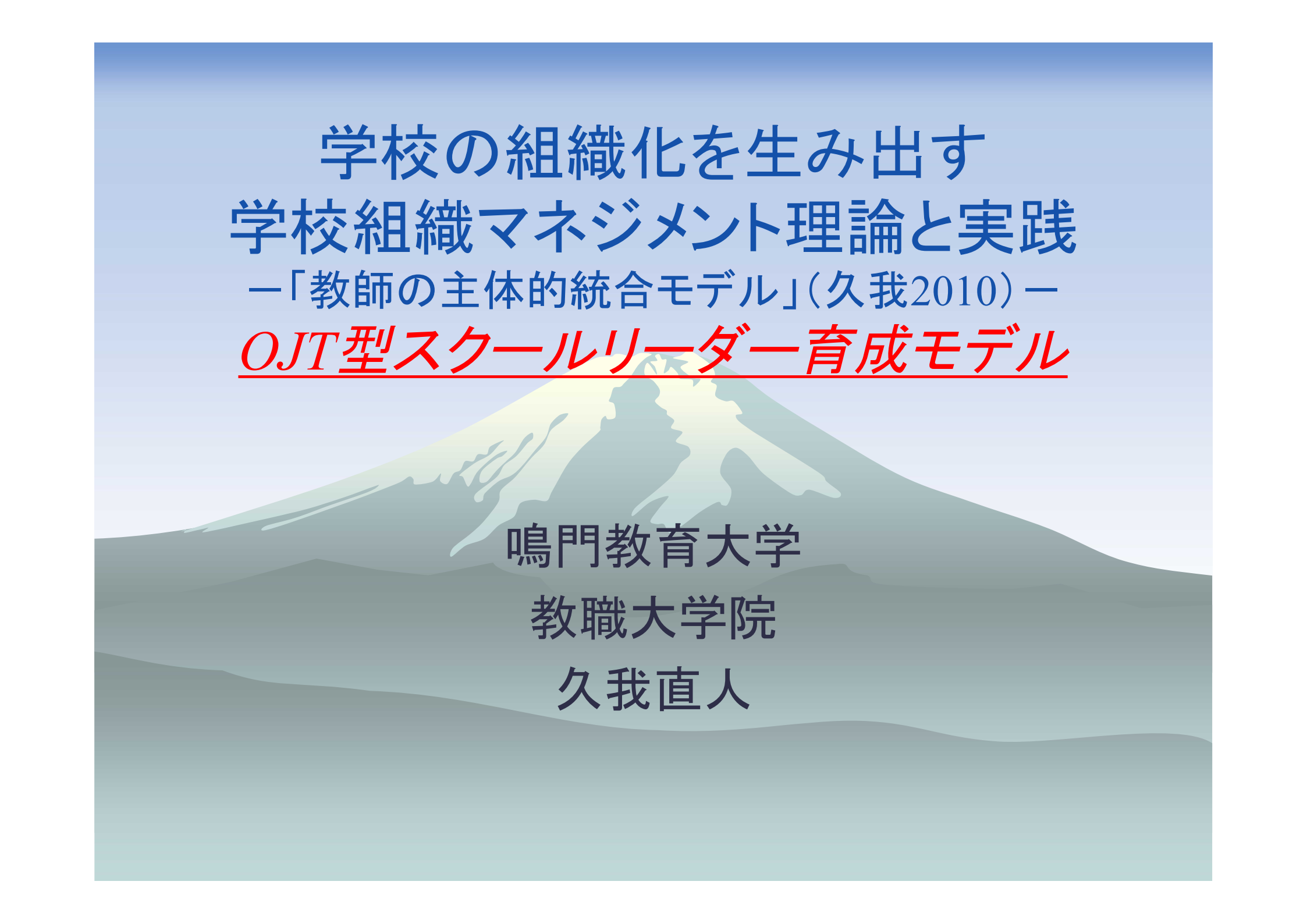
# 「効果のある指導」への取り組みを通じた 3つの視座の獲得＝OJTによる教師の力量形成





# 幸せの最大化に資する 心をつなぐ組織的な教育





学校の組織化を生み出す  
学校組織マネジメント理論と実践  
—「教師の主体的統合モデル」(久我2010)—  
OJT型スクールリーダー育成モデル

鳴門教育大学  
教職大学院  
久我直人

# 学校組織における組織化の困難性

＜ルースカップリング論からの整理＞佐古(2005)

①組織目標(教育目標)の曖昧さ・多義性

②教育活動の流動性・非構造化性

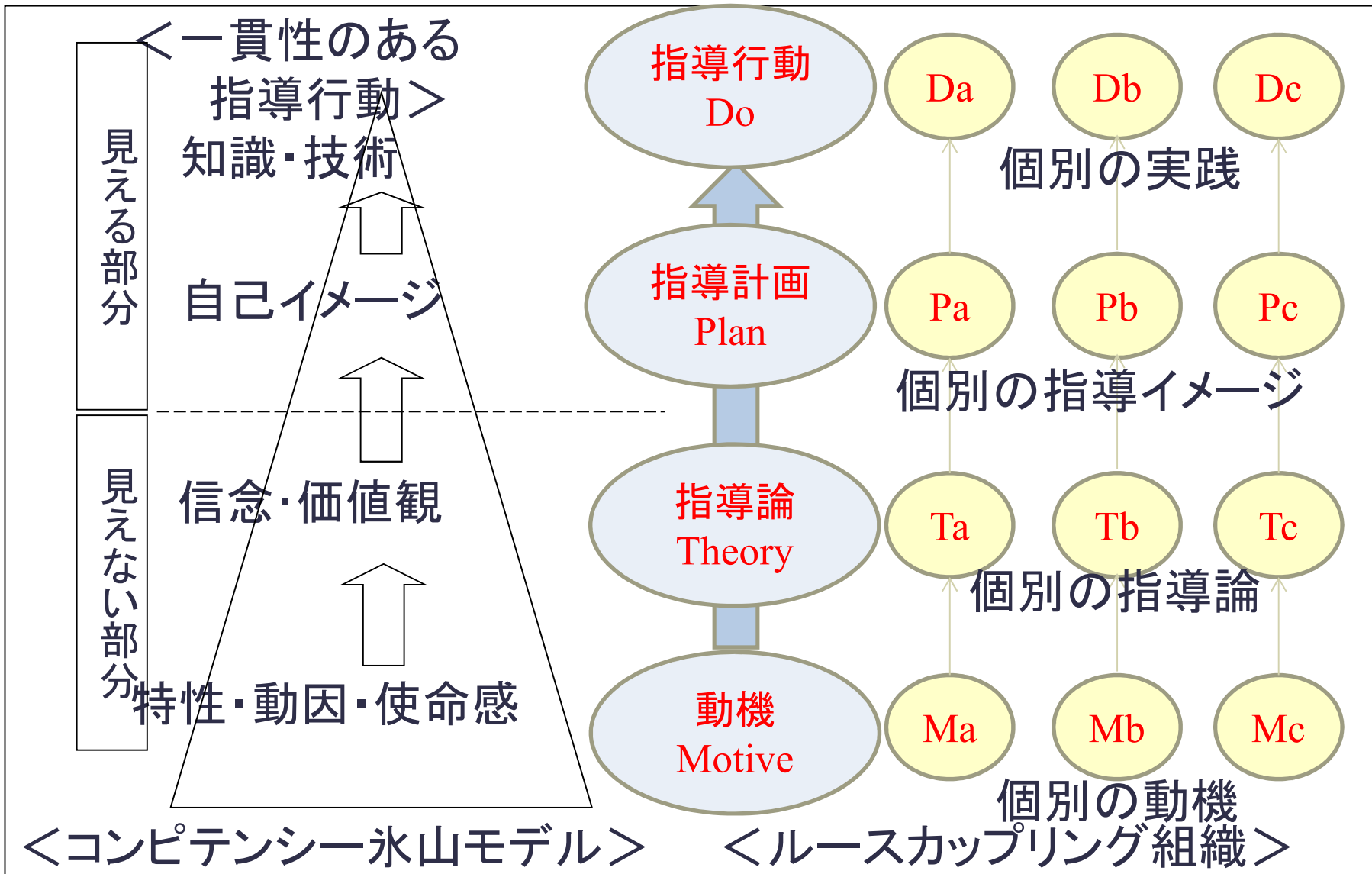
⇒組織構成員(個々の教師)の行動の公式化ないし標準化による統制が困難

＜信念研究, コンピテンシー研究からの整理＞

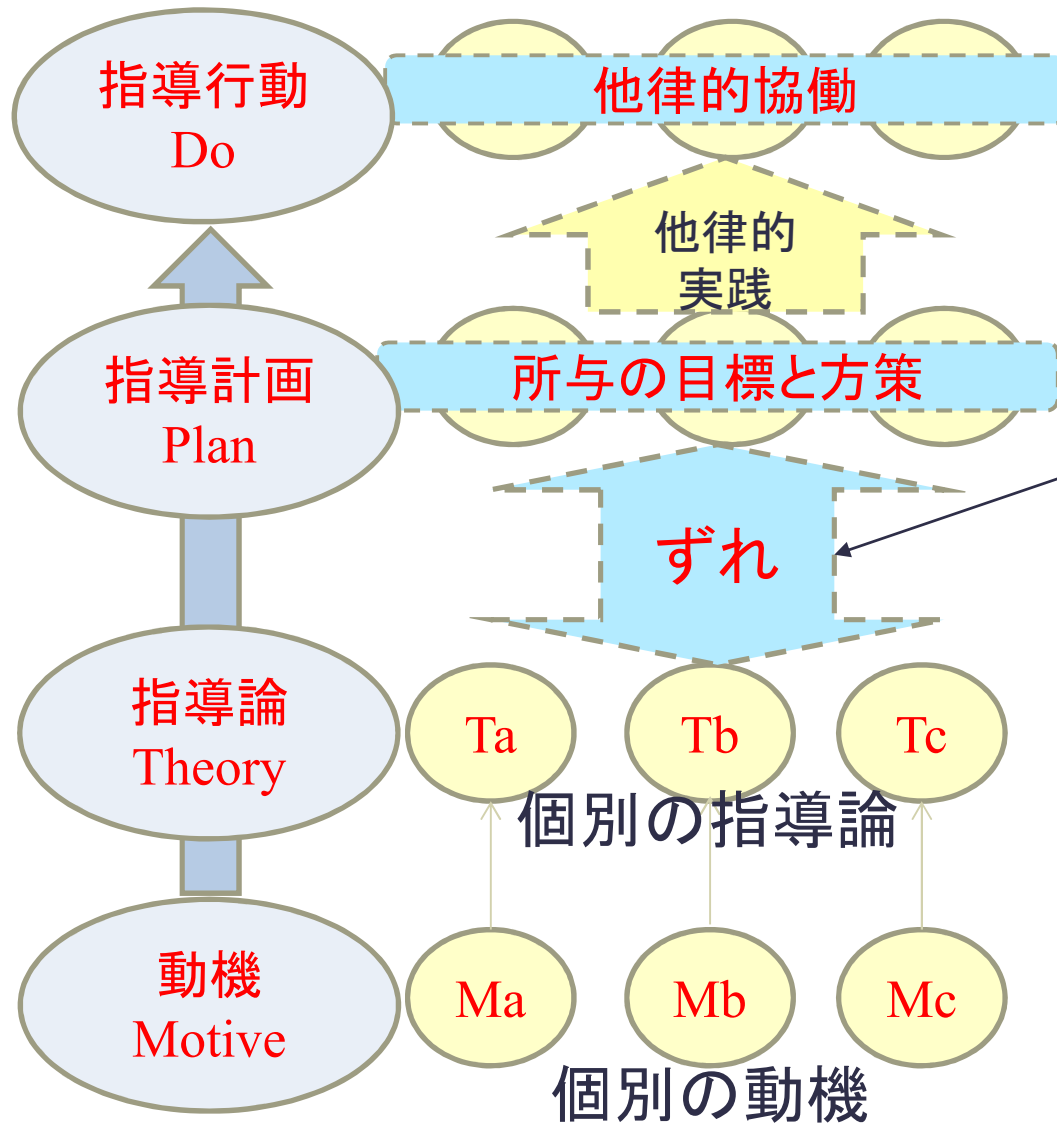
個人レベルの指導論(PTT); 梶田他(1985)

コンピテンシーの冰山モデル; スペンサー&スペンサー(2001)

# コンピテンシーの氷山モデルと ルースカップリング論の組織イメージの整理



# 目標所与型組織の協働の限界



- ▲所与の目標, 方策の根拠や必要性が十分に説明されない  
⇒価値の内在化が進まない
- ▲個々の指導論, 信念とのズレが生じる

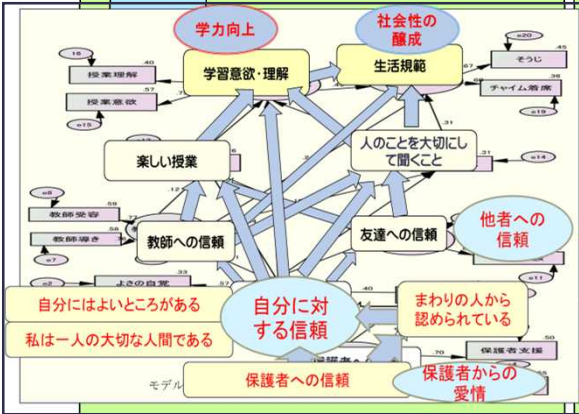
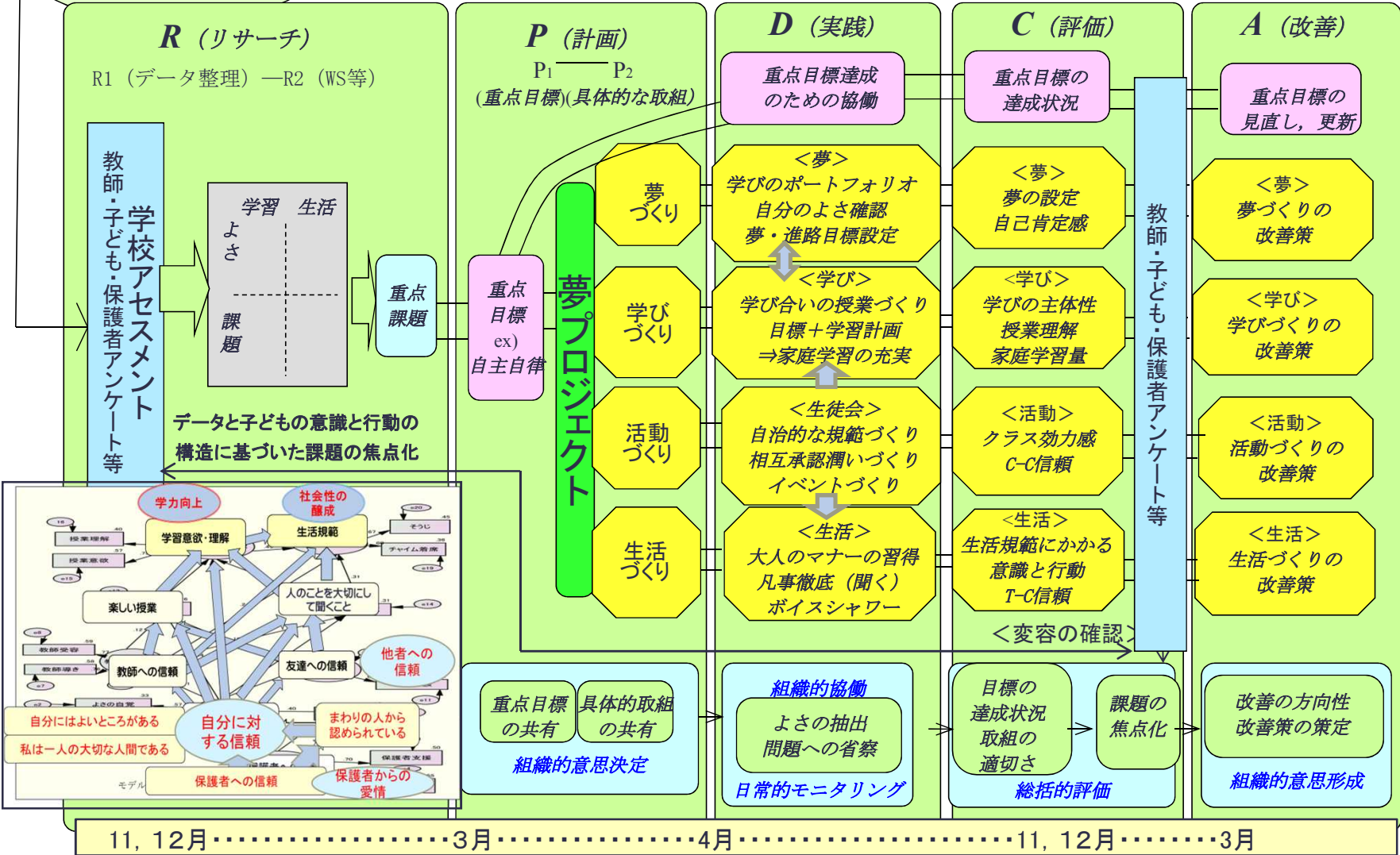
佐古(1990)  
△目標共有における統制(トップダウン)的傾向  
⇒教員の職務遂行意欲を低レベルに留める

# 子どもの意識と行動の構造に基づいた 教職員の組織的取り組みの設定と展開

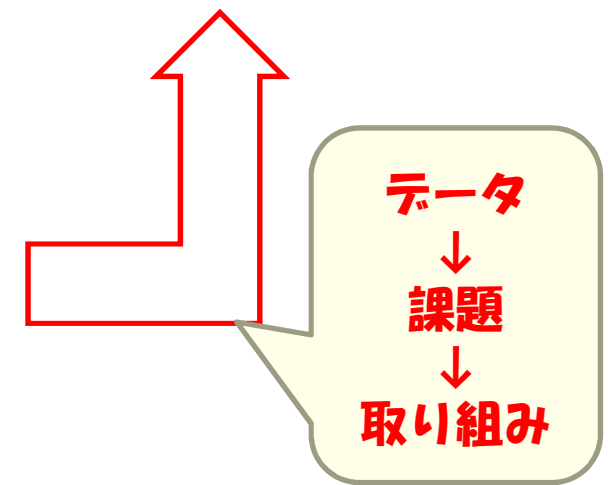
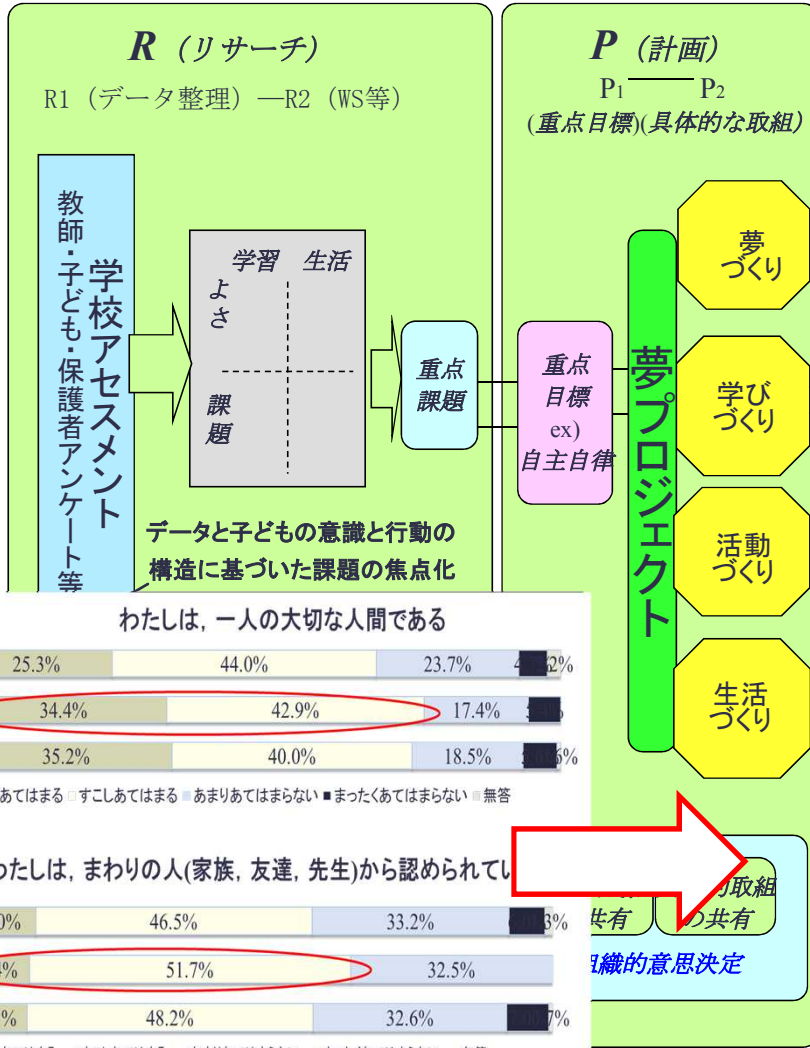
## 効果のある学校づくり

鳴門教育大学 教職大学院  
久我直人(2014)

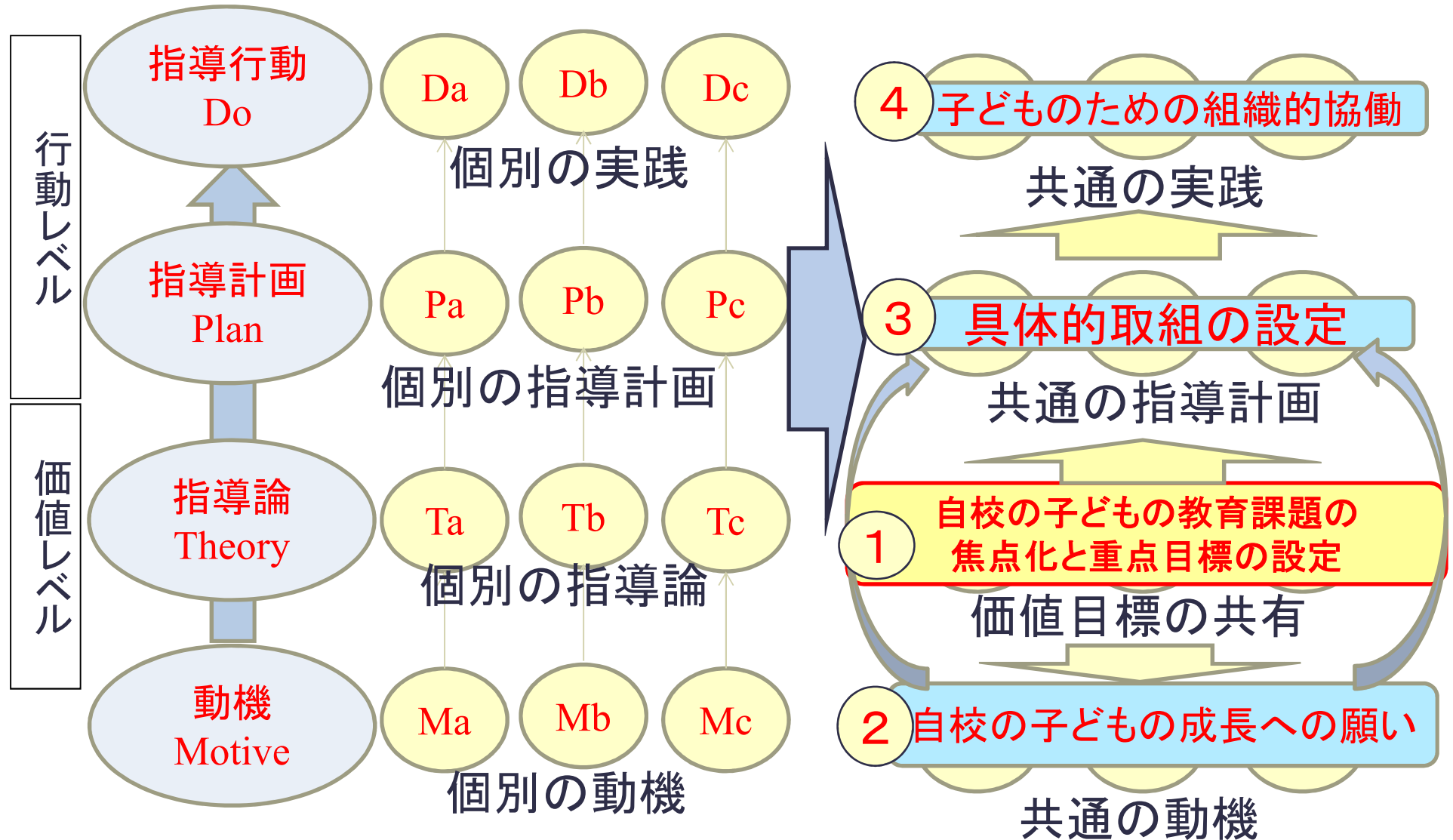
改善の方向性の明示  
 ○自校のミッションとは？  
 ○我々は、どこに向かって  
 教育を進めていくべきか？  
 =校長のビジョン



# 全員参加型の学校づくり 組織的教育意思形成(プランづくり)の場の設定

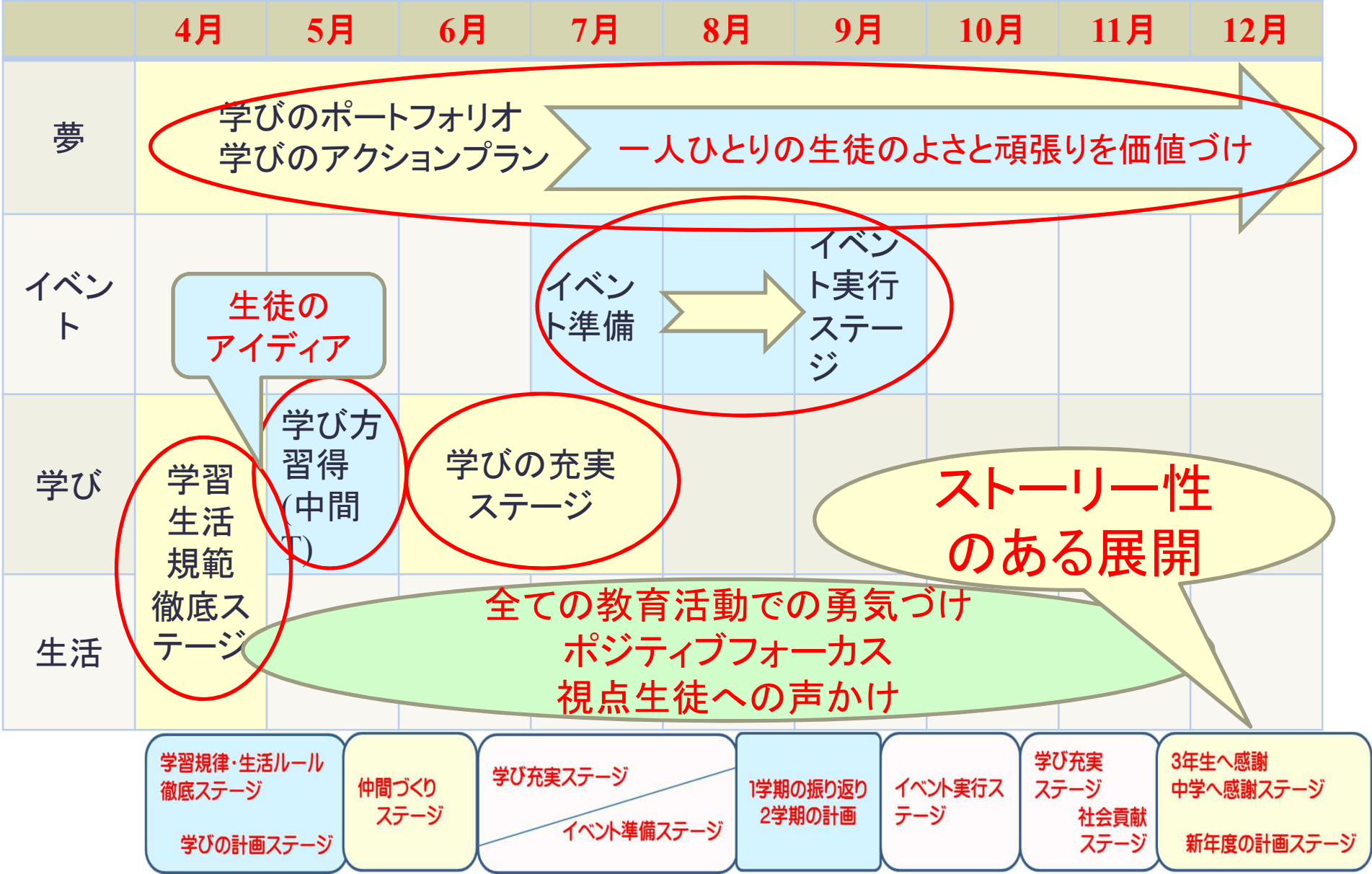


# 個別分散型組織から課題共有型組織 への転換の可能性





組織的展開のイメージ; 一歩ずつ組織で歩みを進める  
 焦らず, 慌てず, 怠らず... 小さなエネルギーで大きな効果



# 組織化による教育改善の可能性

## 個別分散型組織

「I」を主語とした教育

- ▲優れた実践⇒自己完結型
- ▲個々の悩み⇒抱え込み
- ▲子どもの変容;部分的
- ▲保護者の信頼;部分的

## 目標共有型組織

「We」を主語とした教育

- ◎優れた実践⇒共有
- ◎個々の悩み⇒組織的解決
- ◎子どもの変容;全体的
- ◎保護者の信頼;全体的

教職員の子どもの実態に基づく  
主体的統合による組織化

# 効果のある学校づくりを通じた OJT型スクールリーダー、教員育成

◎鳴門教育大学 教職大学院現職院生指導

◎高知県志育成型学校活性化事業

◎実践研究校との共同研究

# 高知県学校活性化事業における 教員育成研修①<推進校>

◎推進校での『効果のある学校づくり』を通じた  
OJT型人材育成・研修

①スクールリーダー；校長として、教頭として

**学校組織マネジメントの理論と展開**を習得

②ミドルリーダー；主幹教諭、研究主任、生徒指導主事の**組織推進(ファシリテート)力**の習得

③全教職員；実践を通じた**指導の質的転換**

# 高知県学校活性化事業における 教員育成研修②＜推進校間の連携＞

## 推進校の実践の交流

①推進校での『効果のある学校づくり』の報告

②各校の取り組みのノウハウの共有

**勇気づけ、規範づくり、学びづくり、活動づくり**

③特に、自校に取り入れられる『効果のある取り組み』を持ち帰る

④自校での取り組みの再設定とその実践



**推進校を会場とした公開研究集会；県下へ発信**

## 高知県学校活性化事業における 教員育成研修③<集合研修との連携>

◎『効果のある学校づくり』の理論

◎推進校での実践事例



①校長研修会（平成25年度）

②教頭研修会（平成27年度；予定）

③研究主任研修会（平成26年度）

④生徒指導主事研修会（平成26年度）



自校の課題⇒取り組みの設定⇒実践⇒検証

資料

# 高知県志育成型学校活性化事業

高知県教育委員会人権教育課  
課長補佐 飯田泰明

# 志育成型学校活性化事業～高知夢いっぱいプロジェクト～

## 人権教育課

### 事業概要

教育活動の中に生徒指導の視点を着実に位置づけ、PDCAサイクルに基づく開発的な生徒指導(子どもに内在する力や可能性を引きだす生徒指導)に組織的に取り組めるよう、推進校を指定し、重点的に支援する。

### 期待される効果

○組織的な生徒指導推進体制の確立と開発・予防・対応における生徒指導の充実により、生徒の自尊感情が育まれ、社会性、規範意識が高まる。

生徒指導上の諸問題(いじめ、不登校等)の改善

### 現状・課題

- 子どもたちの自尊感情や自己有用感が十分育まれていない。
- 問題行動等への対応に追われ、生徒指導が目指すべき本来の取組が十分にできていない状況にある。

生徒指導上の諸問題や非行が憂慮される状況が続いている。

### 事業目標

- 生徒の自尊感情や自己有感の育成
- 組織的な生徒指導の推進
- 推進校の先進的な取組を県内に広げることで、生徒指導の充実、学校経営の改善を目指す。
- 平成27年度までに、生徒指導上の諸問題の状況を、全国平均まで改善!

### 実施内容

#### (1) 志育成型学校活性化事業～高知夢いっぱいプロジェクト～

##### ◆推進校(11校)

- ・子どもたちの自己有用感を育み、自分の良さを生かした夢・志が語れ、それに向かって努力できる生徒を育成 → I(自分自身)を伸ばす
- ・仲間を大切に、社会性を育む取組を推進 → We(仲間)を広げる
- ・「不登校生徒」、「発達上の課題のある生徒」、「非行・問題行動を起こす生徒」等に対する学校支援力を向上させる取組を推進
- ・学校支援会議(年2回)、推進リーダー会議(年3回)の実施
- ・連絡協議会(年1回)、公開授業研修会(2校)の実施

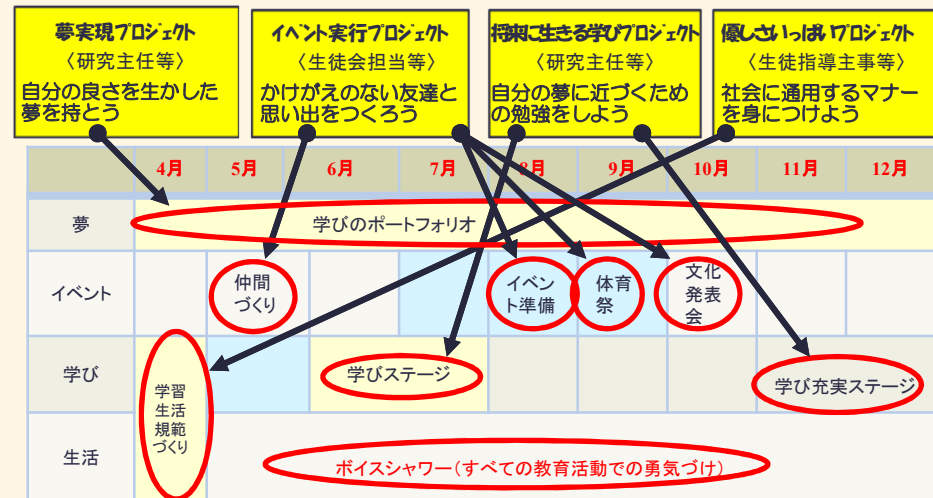
##### ◆統括アドバイザー・生徒支援アドバイザーによる推進校への学校訪問

- 【統括】Iを伸ばしWeを広げるための計画的・組織的な教育活動・生徒指導を実践するための指導・助言
- 【生徒支援】不登校や発達障害等の生徒等への対応・支援の充実のための指導・助言

##### ◆推進リーダーの役割(推進校(11校)に1名加配として配置)

- 本事業推進のための中心的役割を担う。
- また、「学校の支援力向上に向けた取組」の推進(コーディネート)役を行う。

「自分への信頼を高め、仲間との絆を深めるために、学校経営を4部門(夢、学び、生徒指導行事)に分け、時期ごとに重点取組を設定し組織的に取り組む  
「学びのポートフォリオ(がんばりの履歴)」と「ボイスシャワー(肯定的な声かけ)」は、年間を通して全教職員が組織的に行う



- 学校の組織力向上(開発的な生徒指導の充実)
- 授業改善(学力向上)
- 生徒支援力の向上(不登校等の改善)を目指す



志育成型学校活性化事業 ～高知夢いっぱいプロジェクト～

すべての子どもが自分のよさや夢を語れる学校をつくる

～子どもの I を伸ばし(自己成長)、We の世界を広げる(社会性の醸成)～

- すべての子どもが仲間とともに、自分の力を伸ばすことのできる学校
- 特別な支援を要する子どもへの指導・支援が充実している学校

子ども(保護者)にとって魅力ある学校づくり

→ 結果として、生徒指導上の諸問題が改善される(開発的・予防的生徒指導)

〈期待される効果〉

- 子どもたちの自己有用感が高まり・・・
  - ・自分のよさや個性を生かした夢を語れる
  - ・大切な仲間と思い出を積み重ねていく
  - ・社会に通用するマナーを身につける
  - ・自分の夢に本気で挑戦する学びを行う
- 教職員のモチベーションが高まり・・・
  - ・組織的な指導力・支援力が向上する
  - ・組織的取組を実行するミドルリーダーが育成され、学校組織が活性化される

《推進校・準推進校》

〈H25〉 〈H26〉 〈H27〉 〈H28〉



〈教職員〉 効果のある取組を、組織的に“一点突破”で行う

- (主要な取組) ○学びのポートフォリオ ○ボイスシャワー ○聴くことの指導 ○アンケート調査(年2回)
- ◇ 各校ごとに、最も効果のある取組を「1つずついいねに」、「ストーリー性を持って」実施

夢フロ推進リーダー(研究主任等)

統括アドバイザー (年間3回訪問)				個別課題支援員 (年間6回訪問)
<b>夢実現プロジェクト (I)</b> 〈研究主任等〉 自分の良さを生かした夢を持とう	<b>イベント実行プロジェクト (We)</b> 〈生徒会担当等〉 友達とかけがえのない思い出をつくろう	<b>優しさいっぱいプロジェクト (We)</b> 〈生徒指導主事等〉 社会に通用するマナーを身につけよう	<b>将来に生きる学びプロジェクト (I)</b> 〈研究主任等〉 自分の夢に近づくための勉強をしよう	「支援会」での助言 〈養護教諭等〉 不登校生徒、発達上の課題のある生徒、非行・問題行動を起こす生徒等への効果的支援

**指導主事の学校訪問**

- ・学校訪問による事業の進捗管理
- ・統括アドバイザー、個別課題支援員と共に学校支援

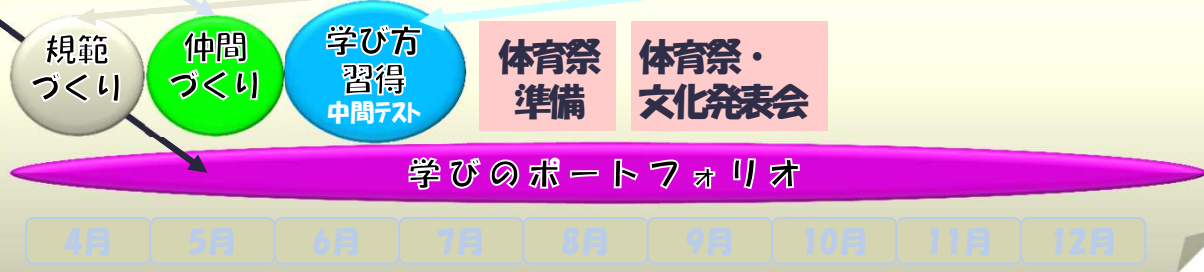
**推進校間での共有**

- ・学校支援会議【年2回】
- ・推進リーダー会議【年3回】
- ・公開授業研修会【2年目】

**全中学校への普及**

- ・連絡協議会
- ・メールマガジンの配信 等

一点突破の取組(展開例)



# 今月の『重点取り組み』を全校で共有

## <教師用>

## <生徒用>

### 6月の重点取り組み事項

中心となる取り組み

生徒面談  
～ 勇気付けの生徒面談 ～

取り組みの目標、取り組み後に期待する生徒の姿

学校生活全般において、  
自分や他者を大事にする意識の向上



重点指導項目

- ☆ 行事で学んだことのふりかえり
  - ・ 良かったことを再確認・意識づけ・勇気づけ
  - ・ それを維持するボイスシャワー

生徒の実態に応じて  
・ ゴールイメージ  
・ 指導の方法  
を学年で検討してください。

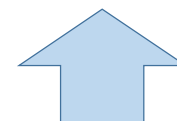
### 6月の重点取り組み事項

中心となる取り組み

**生徒面談**

取り組みの目標

**自分や友達を大切にできる行動  
を増やしていこう**



特に意識してほしいこと

- ・ **5月の行事で、自分や友達の良かったこと・がんばったことを面談でしっかり話そう**
- ☆ **行事で学んだことや、良かったことを続けていこう !!**  
**特に3年生は、自分の進路に向けて、考え、行動しよう**

# 研修会資料; 校長研修会 5月⇒10月

[ 中学校 氏名 : ]

T : 教師	現 状 5/28	C : 生徒

一点突破の取組案 5/28

--	--

T : 教師	取組の経過・変容	C : 生徒

[ 中学校 氏名 : ] [裏面]

さらなる一点突破の取組案 10/29	

T : 教師	取組の成果・変容 1月末	C : 生徒

組織的な取組の実践に関する感想等

# 資料

この他のスクールリーダー育成の取り組み

鳴門教育大学と徳島県教育委員会との連携事業  
主幹教諭・指導教諭研修

鳴門教育大学教職大学院  
OJT型実践力育成カリキュラム

# 鳴門教育大学と徳島県教育委員会との連携事業 主幹教諭・指導教諭研修

H27. 4～

## 研修の概要

- 対象者； 主幹教諭、 指導教諭  
想定人数 1年目の教諭 約30名程度、 2年目以降の教諭 140名程度
- 講師・指導者； 鳴門教育大学教員、徳島県教育委員会及び徳島県総合教育センター職員
- 会場； 徳島県総合教育センター及び鳴門教育大学
- 研修内容；  
[1年目]  
講義・演習(3回) + 自己研修(立案した計画の実施) + ラウンドテーブル(実践の省察)  
[2年目以降]  
自己研修(立案した計画の実施) + ラウンドテーブル(実践の省察)

## 実施形態

- 「鳴門教育大学と徳島県教育委員会との連携協力に関する協定書」(H27. 5締結予定) に基づき実施。
- 徳島県教育委員会(徳島県総合教育センター)及び鳴門教育大学の連携事業

## 実施体制

- 上記協定書に基づき、「鳴門教育大学・徳島県教育委員会連携協議会(仮称)を設置 (H27. 5締結予定)
- 上記協議会に、教員研修など複数の課題・テーマに対応する専門部会を設置。  
研修実施の主体となるとともに、成果の検証、改善策の検討を行う。

※ ラウンドテーブル (Round Table) ;

円卓会議。数人による小規模な会合のこと。

ラウンドテーブルで行う会議は、座り順といった上下関係を見捨てることのできることから、「平等に意見を述べる」ということを意味・意図している。

# 主幹教諭研修の概要

## 1年目

### 第1回講義・演習

※下線付き科目名は、指導教諭研修との共通科目

- 日時：4月初旬 [平成27年度 4月6日(月)]
- 内容：①職務について ②学校におけるコンプライアンスについて  
③学校組織マネジメントと協働体制の確立  
④学校分析の観点と方法

※終了後、自己研修グループ振り分け

### 自己研修 I

期間：5～7月

### 第2回講義・演習

- 日時：7月下旬
- 内容：①職場でのコーチングの充実 ②カリキュラムの充実  
[③④ラウンドテーブル(RT)]

### 自己研修 II

期間：8～12月

### 第3回講義・演習

- 日時：12月下旬
- 内容：①地域連携の構築 ②危機管理体制の充実  
[③④ラウンドテーブル(RT)]

### 自己研修 III

期間：1～3月

## 2年目

自己研修

前年度立案した計画の  
実践

### 第3回演習(RT)

- 日時：12月下旬
- 内容：③④ラウンドテーブル  
(RT)

自己  
研修

実践

## 講義・演習科目及び担当者

### 主幹教諭研修

#### 第1回講義・演習

- ①職務について
- ②学校におけるコンプライアンスについて
- ③学校組織マネジメントと協働体制の確立
- ④学校分析の観点と方法

#### 第2回講義・演習

- ①職場でのコーチングの充実  
[鳴門教育大学  
阿形教授、小坂教授、末内准教授、池田講師]
- ②カリキュラムの充実 [鳴門教育大学 村川教授]

#### 第3回講義・演習

- ①地域連携の構築 [鳴門教育大学 大林講師]
- ②危機管理体制の充実 [鳴門教育大学 阪根教授]

### 指導教諭研修

#### 第1回講義・演習

- [徳島県教育委員会教職員課]  
[徳島県教育委員会コンプライアンス推進室]  
[鳴門教育大学 佐古教授]  
[鳴門教育大学 久我教授]

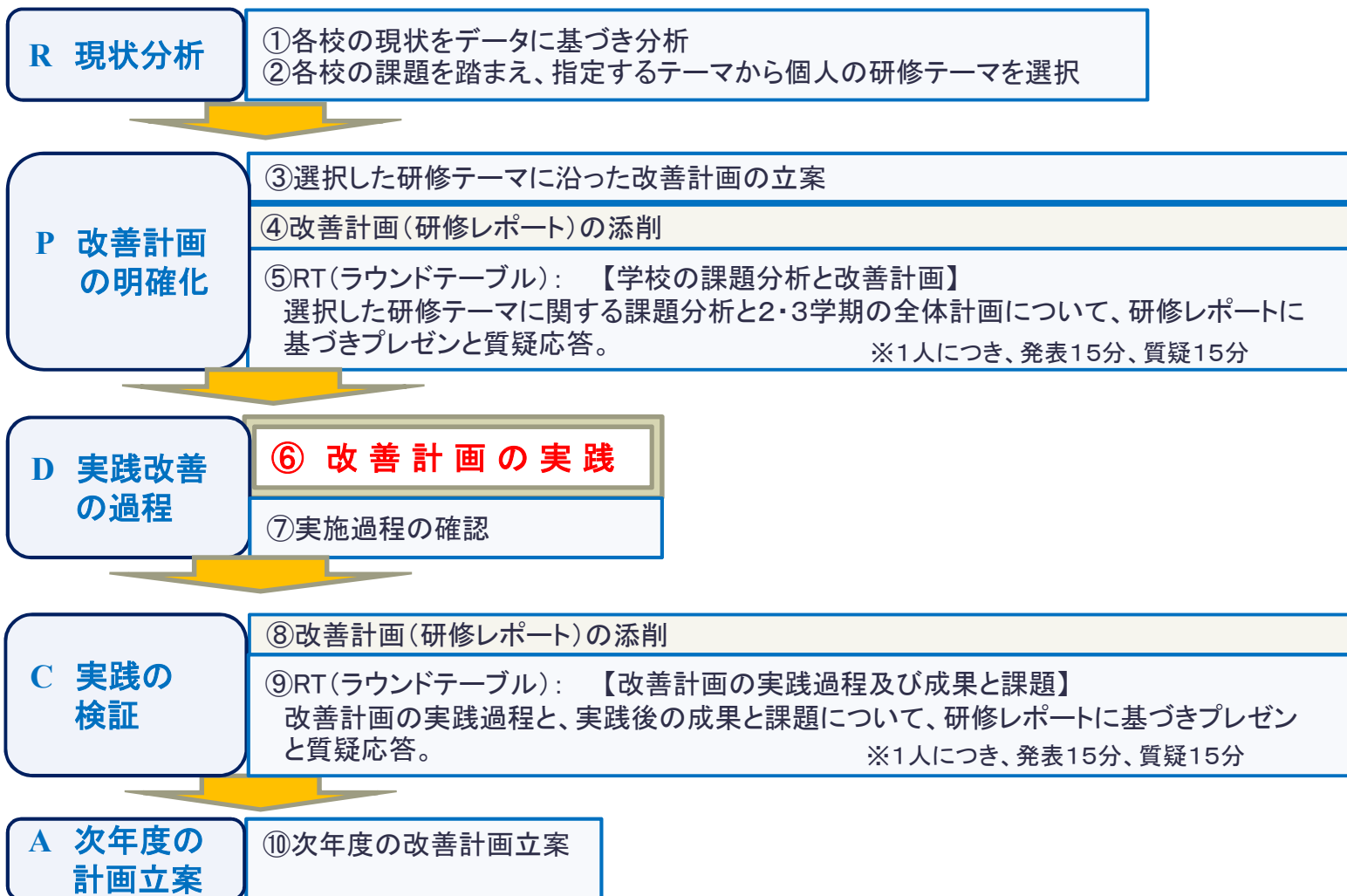
#### 第2回講義・演習

- ①職場でのコーチングの充実  
[鳴門教育大学  
阿形教授、小坂教授、末内准教授、池田講師]
- ②校内研修の活性化 [鳴門教育大学 芝山准教授]

#### 第3回講義・演習

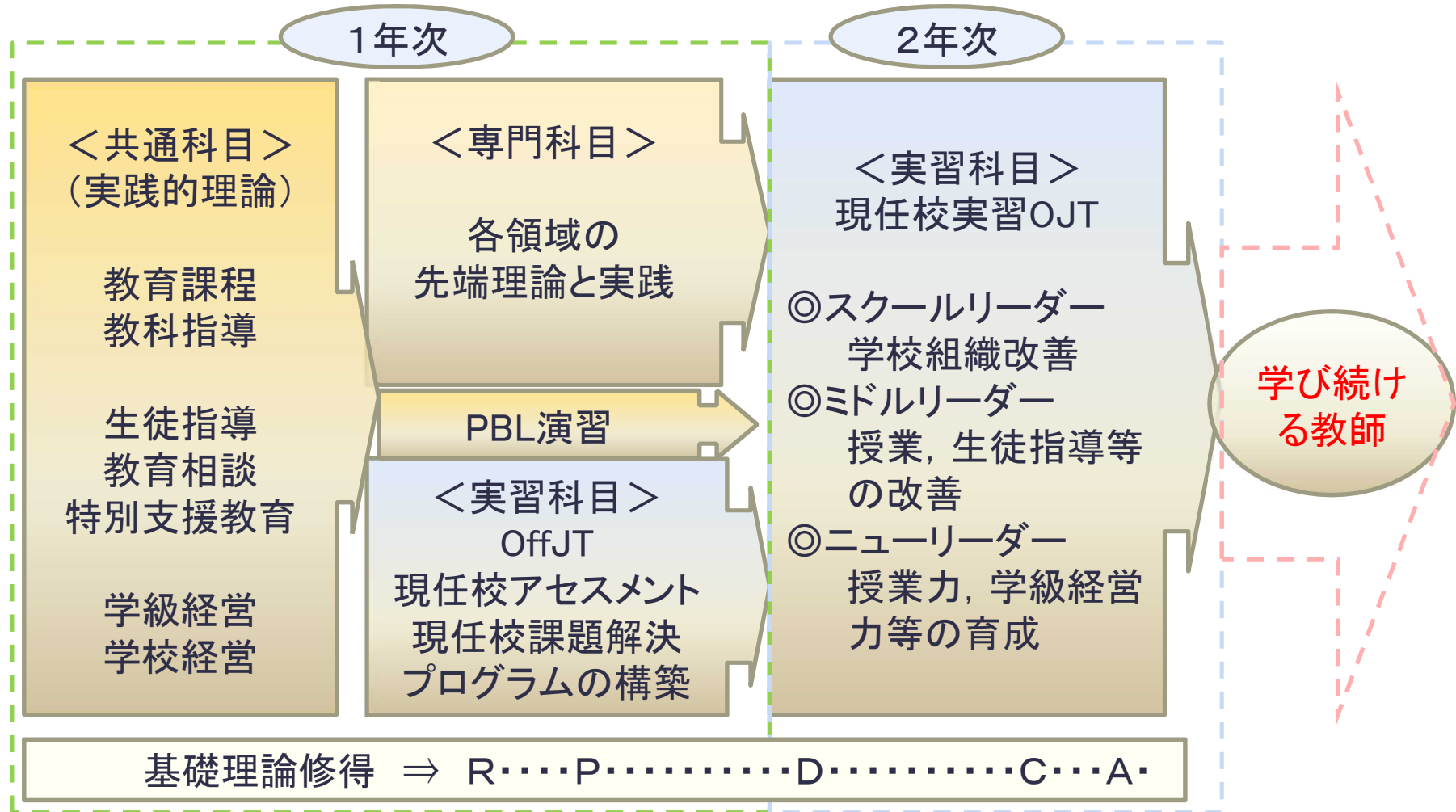
- ①授業研究の高度化  
[鳴門教育大学 西村教授、金児准教授]
- ②ICT活用指導力の向上と情報モラルの推進  
[鳴門教育大学 藤原准教授、泰山講師、  
徳島県教育委員会 指導主事]

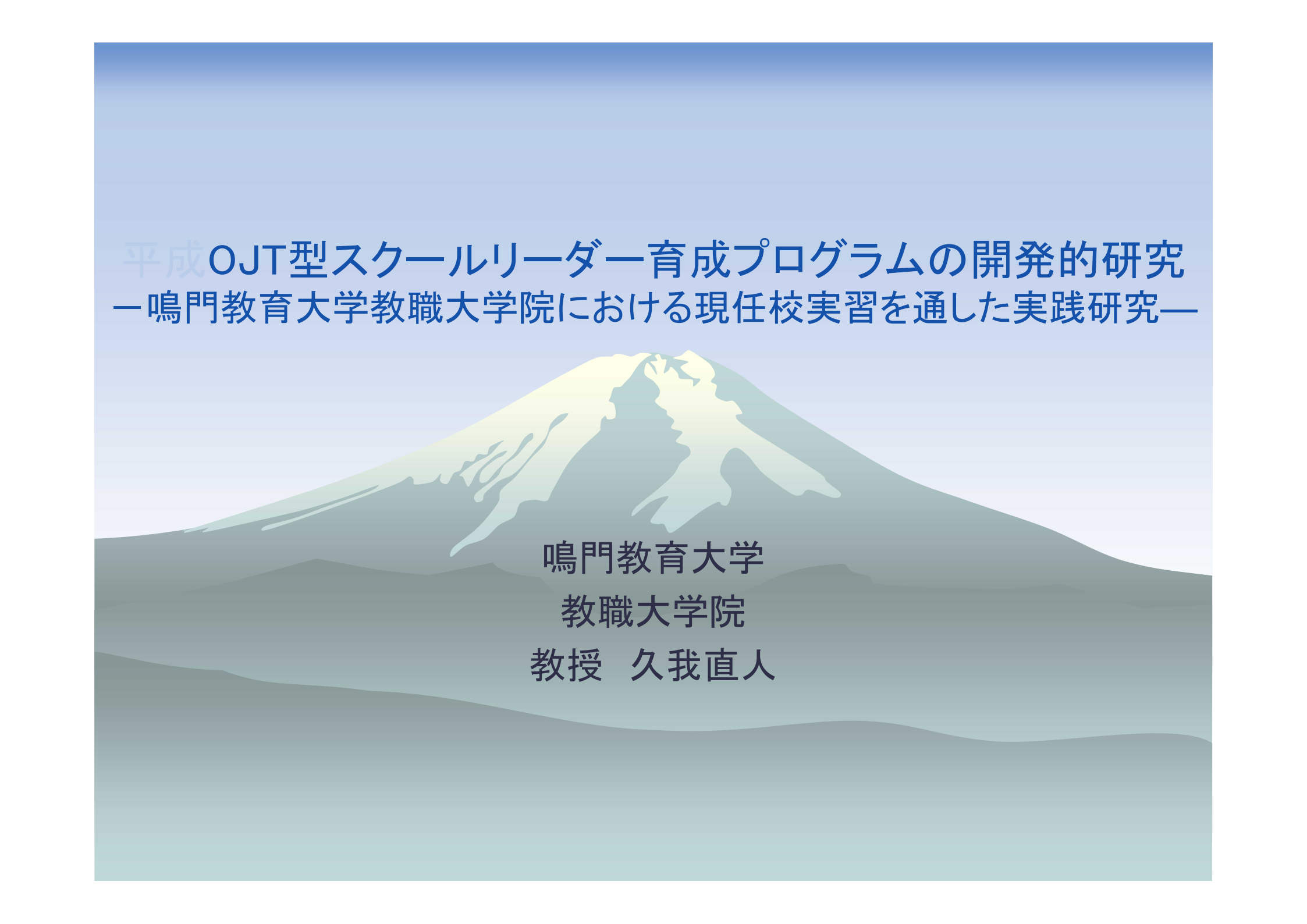
## 自己研修の流れ





# 鳴門教育大学教職大学院 OJT型実践力育成カリキュラム





平成OJT型スクールリーダー育成プログラムの開発的研究  
—鳴門教育大学教職大学院における現任教実習を通じた実践研究—

鳴門教育大学  
教職大学院  
教授 久我直人

# 鳴門教育大学 教職大学院の位置づけ

＜平成20年度設置＞

目的；①教職実践力の高度化（現職教員）

②教職実践力の養成（学卒者）

鳴門教育大学教職大学院

現職教員35名定員

学卒者 15名定員

平成26年度7期生を迎える（1～5期生修了）

# 鳴門教育大学教職大学院 OJT型実践力育成カリキュラム

